

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.18

2018

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.18

2018



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙

特別展「笠沙の魚たち」 笠沙恵比寿（南さつま市）にて

年報 No.18 目次

1	総合研究博物館の組織－ 2018 年度－ 館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会	橋本達也	(1)
2	2018 年度の企画事業		
	1. 研究交流会		
	(1) 第 25 回研究交流会 東南アジアにおける植物の多様性	田金秀一郎	(3)
	2. 市民講座		
	(1) 第 35 回市民講座 バケツ一杯の水で住んでいる魚がわかる技術 ：環境 DNA メタバーコーディング	本村浩之	(3)
	(2) 第 36 回市民講座 リアル 田原坂－西南戦争を考古学する－	橋本	(4)
	3. 公開講座		
	(1) 第 18 回自然体験ツアー 城山の地形・地質さんぽ	橋本	(4)
	4. 第 18 回 特別展 笠沙の魚たち	本村	(5)
	5. その他の活動		
	(1) 特別講演会 The History of Fish Taxonomy in Taiwan	本村	(6)
	(2) 特別イベント 鹿児島の子をさわろう！	本村	(7)
	(3) グッズプレゼントくじ	橋本	(7)
	(4) 特別イベント 博物館で見る魚の多様性	本村	(8)
3	常設展示室	上村 文	(9)
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－ 2018 年度－ (2017 年度からの変更点)		
	6. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	1. 博物館実習	橋本・本村・田金	(12)
	2. 教員免許更新講習	橋本・本村	(13)
	3. インターンシップ	橋本・本村・田金	(13)
5	出版・広報	橋本	(14)
6	ボランティア活動	本村	(15)
7	標本管理活動		
	1. 植物標本室	田金	(16)
	2. 魚類標本の利用状況	本村	(16)
	3. その他の標本等の管理・利用	橋本	(18)
	4. 奄美の高倉補修	橋本	(18)
8	2018 年度 専任教員の活動業績	各教員	(19)
9	2018 年度 ポスター	各教員	(33)
10	2018 年度 魚類ポスター	本村	(35)

1 総合研究博物館の組織－2018年度－

館長	本村 浩之	総合研究博物館
研究部		
資料研究系	橋本 達也 教授	考古学
分析研究系	本村 浩之 教授	魚類分類学
	田金秀一郎 特任助教	植物分類学
	大西 佳子 助教	地球人間圏科学 (2018年7月より)
事務補佐員	西元 暢子	
事務補佐員 (常設展示室)	上村 文	
技術補佐員	大西聡子	
技能補佐員	西原茉莉 (2019年2月1日より)・中原敏昭 (2019年3月1日より)	
事務局	研究国際部研究協力課研究支援係	

運営委員 (総合研究博物館専任教員を除く)

法文学部	太田 純貴 准教授	教育学部	和田 七洋 准教授
理学部	相場慎一郎 准教授	医学部	牧迫飛雄馬 教授
歯学部	上川 善昭 准教授	工学部	三隅 浩二 准教授
農学部	朴 炳宰 准教授	水産学部	鈴木 廣志 教授
共同獣医学部	小尾 岳士 准教授		
医歯学総合研究科	後藤 哲哉 教授		

兼務教員 (敬称略)

地球科学分野

- 松井 智彰：教育学部 (灰斜長石巨晶の鉱物学的研究)
北村 有迅：理学部 (四万十帯および現生付加体の形成過程とプレート境界の動的過程の地質学的研究)
中尾 茂：理学部 (始良カルデラ周辺の地殻変動に関する研究)
仲谷 英夫：理学部 (脊椎動物の進化と古生態)
ハフィーズ ウル レーマン (地質学、野外調査、地球科学、変成岩石学)

生物学分野

- 川西 基博：教育学部 (河畔域における植物群落の動態と河川攪乱との関係に関する研究)
栗和田 隆：教育学部 (動物の行動・生態の進化における進化生態学的研究)
大塚 靖：国際島嶼研 (衛生昆虫の日本および東南アジアでの種分化と病原菌との関係の解明)
山本 宗立：国際島嶼研 (アジア・オセアニアにおける唐辛子の民族植物学的研究)
相場慎一郎：理学部 (多雨林の植物多様性)
宮本 句子：理学部 (野生植物の遺伝的多様性)
上野 大輔：理学部 (海域や陸水域に生息する共生および寄生性甲殻類の分類と生態)
佐藤 正典：理学部 (環形多毛類の分類学的研究)
富山 清升：理学部 (軟体動物の生態学、生物地理学、保全生物学、系統分類学の研究、島嶼の生物相の研究)
一谷 勝之：農学部 (作物の遺伝的多様性)
鶴川 信：農学部 (マレーシアの熱帯雨林における各樹種の生育環境の解明、徳之島の天然林における各樹種の個体群動態の解明)
中西 良孝：農学部 (在来家畜および再野生化家畜の保護と活用に関する研究)

松元 光春：共同獣医学部（現生及び遺跡出土骨に関する形態計測学的研究）
藤田 志歩：共通教育センター（野生霊長類の行動と生態、奄美群島に生息する哺乳類の分布）
鈴木 廣志：水産学部（学術標本の調査・収集・整理・分類・保存・管理に関する研究、十脚甲殻類の分類と生態・生活史に関する研究）
寺田 竜太：連合大学院 農学研究科（熱帯、亜熱帯における海藻類の種多様性と群落維持機構）
山本 智子：水産学部（干潟底生生物の群集生態学的研究）
江幡 恵吾：水産学部（漁業生産、漁具漁法）
久米 元：水産学部（魚類生態学、魚類学）
遠藤 光：水産学部（水圏植物生態学）
佐久間 美明：水産学部（環境経済学、魚類管理学、漁業経済学、教育学）

考古学・歴史学・民俗学分野

高津 孝：法文学部（薩摩塔及び南西諸島現存碇石の研究）
丹羽 謙治：法文学部（日本近代文学・薩摩藩および鹿児島県の古文書・歴史史料に関する研究）
石田 智子：法文学部（弥生時代における土器をはじめとする物質文化動態の社会変化に結びつくプロセスの研究）
兼城 糸絵：法文学部（現代中国移民母村に関する文化人類学的研究）
桑原 季雄：共通教育センター（グローバル化の島嶼社会への影響および薩南諸島の観光化に関する研究）
小林 善仁：法文学部（鹿児島の地図資料に関する基礎的研究）
中路 武志：法文学部（地域映像アーカイブスの構築と活用に関する研究）
渡辺 芳郎：法文学部（薩摩焼の考古学的研究）
日隈 正守：教育学部（日本中世諸国一宮制の研究）

教育学・理学・学術情報学分野

有馬 一成：理学部（植物由来タンパク質分解酵素の構造機能相関、弾性線維エラスチンの機能解析）
平 瑞樹：農学部（農地保全と農村周辺の景観・生態系保全に関する調査・研究）
大西 佳子：医歯学総合研究科（アートサイエンス・コミュニケーション）
升屋 正人：学術情報基盤センター（情報ネットワーク・生命情報学）

学外協力研究者

石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学、熱帯果樹に関する研究）
稲田 博：鹿児島県技術士の会（河川・砂防及び海岸工学）
上野 浩子：かごしま環境未来館（魚類寄生虫学）
浦嶋 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）
大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（地質学、古生物学・生物学的研究）
大塚 裕之：鹿児島大学名誉教授（層序学、古脊椎動物学）
鹿野 和彦：産業技術総合研究所（地質学）
川端(北村) 訓代：鹿児島大学大学院、日本学術振興会特別研究員（地震の発生機構の解明）
木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
坂元 隼雄：(財)鹿児島県環境技術協会理事長、鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学教授（魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究）
土田 充義：鹿児島大学名誉教授・NPO 法人文化財保存工学研究室理事長（日本建築史）
塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授（海産無脊椎動物の生殖と発生）
西中川 駿：鹿児島県考古学会会長、鹿児島大学名誉教授（動物考古学、動物解剖学）
福田 晴夫：環境省希少野生動植物種保存推進員（生物学、昆虫生態学）

藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授・株式会社鹿児島 TLO 取締役（木材の循環型社会・バイオマス等の活用による再生可能エネルギーの構築）
 丸野 勝敏：（鹿児島県産植物相の調査、絶滅危惧種の調査・データ収集）
 山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究、昆虫と寄主植物の相互関係、地球温暖化が昆虫に及ぼす影響）
 山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（東南アジア産アリ類の分類・生物地理）

専門部会

委員長 佐藤 正典（理）
 委員 石田 智子（法文） 鶴川 信（農） 栗和田 隆（教育）
 山本 智子（水産） 寺田 竜太（連大） 大塚 靖（島嶼研）
 専任教員

2 2018 年度の企画事業

1. 研究交流会

(1) 第 25 回研究交流会 「東南アジアにおける植物の多様性」

2018 年 7 月 14 日（土）10:30～11:30 に博物館の田金秀一郎が講師となり、東南アジアの植物多様性のホットスポットと発見された数々の新種について、7 年間に渡って実施してきた現地調査の様子などを紹介しながら解説を行った。日本動物学会九州支部、九州沖縄植物学会、日本生態学会九州地区会と共催し、28 人が聴講して植物学の基礎研究の大事さについて理解を深めた。



第 25 回 研究交流会



田金 秀一郎

2. 市民講座

(1) 第 35 回市民講座 「バケツ一杯の水で住んでいる魚がわかる技術：環境 DNA メタバーコーディング」

2018 年 5 月 27 日（日）の 14:00 から 15:00 まで、千葉県立中央博物館の宮 正樹氏を講師として招き、かごしま水族館 1 階レクチャールームにて、総合研究博物館市民講座兼かごしま水族館特別講演会を開催した。

ある特定の水域にからず魚を調べるためには、釣りや網で捕まえたり潜って見るなど大変な労力がかかる。しかし、「水をくむことで、そこにすむ魚がわかる」という方法が開発された。宮氏はこ

の画期的な方法を紹介するとともに、今後この技術からどのようなことができるのかを分かりやすく解説いただいた。小学生から大人まで42人が聴講し、活発な質疑応答もあり盛況であった。



第35回 市民講座

(2) 第36回市民講座 「リアル 田原坂 ―西南戦争を考古学する―」

2018年10月13日(土)13:00～15:00に、鹿児島大学総合教育研究棟102号室において開催した。2018年は明治維新150年ということもあって、幕末～明治初頭の歴史に関する話題が多く、関心も高まっていた。本講座では、熊本市立熊本博物館学芸員の中原幹彦氏を招き、近年、新たな成果が蓄積されている西南戦争における田原坂での考古学的な調査・研究について解説いただいた。中原氏は田原坂の所在する旧植木町の文化財担当者として長らくその調査に関わり、また国指定史跡への指定等をおとして保護にもつとめてきており、その経緯と成果をわかりやすくスライドを中心に説明された。当日は30人ほどの参加者があった。



中原 幹彦 氏



第36回 市民講座

3. 公開講座

(1) 第18回自然体験ツアー 「城山の地形・地質さんぽ」

鹿児島市の市街地に隣接する城山は国指定天然記念物として保護されており、地形・地質、植物などの見所が豊富である。本年度はこの身近な城山の自然を体験・観察する自然体験ツアーを開催した。ツアー全体の案内人は、元総合研究博物館教員の大木公彦（鹿児島大学名誉教授）氏である。

また一部、総合研究博物館教員の田金秀一郎が植物の解説を行った。

9月15日土曜日、13:30に、一行はまずは鹿児島県立博物館裏の公園に集合し、照国神社前で鹿児島平野の高低差を実感した後、城山の遊歩道を徐々に登りはじめた。途中、地層の変化や湧水地などを確認、解説しつつ最終的には城山山頂に到達し、記念撮影を行い16:30現地解散を行った。

途中の歩道や解説地点が狭いため、参加募集人数は20名に限定した。実際には2人での申し込みなどもあって、22名でツアーを行った。またコースは案内人が2018年3月10日放送のNHK「ブラタモリ」で紹介した見所の一部を回るものであったため、非常に注目度も高く、申し込みも多数であったため抽選を実施した。



案内人：大木 公彦 氏(左)

第18回 自然体験ツアー

4. 第18回特別展 「笠沙の魚たち」

2018年7月1日～8月31日（9：00～17：00） 場所：笠沙恵比寿（鹿児島県南さつま市）

笠沙周辺海域にみられる魚、600種の標本やサメやエイの触れられる標本を展示した。各標本に各種の分類や生態に関する解説を書いたカードを添えるとともに、笠沙の魚について解説した28枚の



1 特別展会場の設営の様子



2 約 600 点の標本を展示



3 各標本には解説カード



4 会場設営チーム

特別展 笠沙の魚たち

A0 パネルを設置した。

本展示に関する詳細は『鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター No. 43』に報告している。

会期中、1029 名の見学があった。また希望者にはポスター「笠沙の魚たち」のプレゼントを行った。本特別展は鹿児島大学総合研究博物館、笠沙恵比寿、および鹿児島水圏生物博物館の共催で、笠沙町漁業協同組合の協力のもと実施した。

5. その他の活動

(1) 特別講演会「The History of Fish Taxonomy in Taiwan」



特別講演会 The History of Fish Taxonomy in Taiwan

2018年11月12日(月)17:00～18:30、郡元キャンパス共同利用棟にて、台湾国立海洋生物博物館の Hsuan-Ching Ho 博士による特別講演会を開催した。過去 100 年の台湾における魚類分類学の研究史に関するを概説で、21 名の聴講があった。

(2) 特別イベント「鹿児島のサメをさわろう！」

鹿大祭期間中の2018年11月17～18日に、常設展示室前で「鹿児島のサメをさわろう！」を開催した。総合研究博物館に所蔵されている約15万点の魚類標本から100点のサメやエイを一般公開した。世界一小さいサメ（10 cm くらい）から、人を襲うこともある大型のイタチザメ（標本は約2 m）、発電器を有するシビレエイなどを流水にさらした状態で公開し、2日間で1200人が来場した。

親子での参加が多く見られたことが注目できる。希望者には「鹿児島のサメとエイ」あるいは「笠沙の魚たち」のポスターをプレゼントした。

(3) グッズプレゼントくじ

「鹿児島のサメをさわろう」と同じく鹿大祭にあわせて、常設展示室にて開催した。プレゼントのグッズは以前に標本受け入れに伴って収集していた未使用のガラス製実験道具や竿天秤の分銅などで、1970年代頃のものと考えられる。博物館ですべてを保存する必要はないことから、入館者プレゼントに利用した。

鹿大祭の際が、常設展示室にとって一年でもっとも多くの来館者が訪れるため、この機会にお楽しみ企画として行った。本企画は2年目であり、グッズの在庫は限られているので恒常的に続けることはできないが、事前にTwitterでも情報を流していたこともあって、くじ目当てでの来館者があるほどで、大人にも子どもにも反応は良好であった。約4割程度を当たりくじとした。入館者とストックの状況からあと2年程度は開催できる見込みである。

大学祭期間中の常設展示室内の入館者は、「サメをさわろう」との相乗効果もあり、二日間で482名であった。



鹿児島のサメをさわろう



鹿児島のサメをさわろう



グッズプレゼントくじ

(4) 特別イベント「博物館で見る魚の多様性」

2018年12月2日(日)、かごしま水族館「いおっ子海っ子体験塾」の館外学習として「博物館で見る魚の多様性」を郡元キャンパス共同利用棟で実施した。小学校4年生から高校生までの24名が参加し、水族館職員4名と博物館学生7名のサポートの元、朝9:45から夕方4時まで魚の多様性について体験型学習を行った。

24名は6名ずつ4班に分かれ、午前中は10万点の魚類標本が保管されている部屋で、くじ引きによる指令書(11種類)を受け取り、子どもたちが探偵となって指令書に書かれた魚の標本を探し出し、その標本を調査して、魚の形や生態について考えるというものである。その後、魚クイズ大会を実施。

昼食時は農学部A棟中庭で「サメに触ろう！」(上記学祭企画と同様)を開催した。

午後は、笠沙の魚を同定し、1人2個体ずつの標本作成を行った。魚好きの子供たちが集まったため、子供向けイベントではあるものの、内容の濃い体験学習になった。



1 標本庫から探し出した魚を観察



2 サメの標本を観察



3 笠沙の魚を標本に

博物館で見る魚の多様性

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2018年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者数	120	199	114	162	224	77	95	593	77	146	61	124	1992
団体	7	143	11	118	68	0	32	29	17	71	0	37	533
一般	113	56	103	44	156	77	63	564	60	75	61	87	1459
開館日数	20	20	22	21	21	19	22	21	18	19	19	21	243

常設展示室 曜日別入館者数 2018年度

	火		水		木		金		土		日		月		合計		総計
	団体	一般	団体	一般	団体	一般											
4月	0	20	0	31	0	27	7	16	0	19	0	0	0	0	7	113	120
5月	132	9	0	13	0	10	0	16	11	8	0	0	0	0	143	56	199
6月	0	16	0	17	0	11	0	25	11	34	0	0	0	0	11	103	114
7月	61	10	0	11	47	8	0	10	0	5	0	0	10	0	118	44	162
8月	0	17	28	19	7	75	33	34	0	8	0	0	0	3	68	156	224
9月	0	10	0	29	0	26	0	6	0	2	0	0	0	4	0	77	77
10月	0	16	10	10	0	6	22	15	0	16	0	0	0	0	32	63	95
11月	0	7	0	10	0	23	0	18	29	190	0	316	0	0	29	564	593
12月	0	8	0	18	17	9	0	10	0	15	0	0	0	0	17	60	77
1月	0	14	71	7	0	14	0	29	0	0	0	0	0	11	71	75	146
2月	0	27	0	12	0	10	0	7	0	5	0	0	0	0	0	61	61
3月	0	13	0	22	0	13	37	25	0	14	0	0	0	0	37	87	124
合計	193	167	109	199	71	232	99	211	51	316	0	316	10	18	533	1459	1992
	360		308		303		310		367		316		28		1992		

今年度の総入館者数は1992名で、昨年度に比べ202名増加している。一般169名、団体33名の増加で、大学祭期間中は企画イベントとして去年に引き続き「グッズプレゼントくじ」を実施、加えて「鹿児島島のサメをさわろう」も同時開催し盛況を博した。期間中の入館者は、前年を100名以上、上回った。

2. 利用・活用状況

大学関係では、4月の新入生オリエンテーション（工学部）をはじめ、教育学部・法文学部・農学部・水産学部および共通教育の授業のほか、教員免許状更新講習、博物館実習などの利用があった。学外からは、海外の学術交流協定校をはじめ、県内高校生・PTAの大学訪問のほか、県内外から見学・研修目的での利用があった。

大学関係

- ・工学部機械工学科（1年）フレッシュマンセミナー
- ・大学院理工学研究科（電気電子工学専攻）オリエンテーション
- ・教育学部 博物館学（事前実習見学）
- ・法文学部 博物館実習（見学）
- ・農学部「地学概論」
- ・教育学部「考古学概説」
- ・共通教育科目「鹿児島探訪」
- ・水産学部 ILP（国際連携プログラム）
- ・教員免許状更新講習（総合研究博物館・農学部）
- ・博物館実習

学外

- ・清華大学（海外学術交流）
- ・出水中央高校（大学訪問）
- ・曾於高校（大学訪問）
- ・熊本県社会教育主事講習（現地研修）
- ・騎射場のささき市実行委員会（研修）
- ・寧波盛和塾（見学）
- ・産学連携「高大接続講座」
- ・川辺高校 PTA（大学訪問）
- ・国分高校（SSH 研修）
- ・かごしま企業家交流協会（研修）
- ・中郡小子どもクラブ（見学）

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース 温度(°C)	19.3	21.8	24.1	26.0	25.5	25.9	22.6	18.7	16.9	15.4	14.3	16.0	20.5
1階ケース 湿度(%)	67.2	68.4	66.2	57.1	54.1	64.2	67.5	65.4	66.1	57.3	57.5	61.9	62.7
2階ケース 温度(°C)	20.5	22.4	24.3	25.9	26.0	25.2	21.4	18.9	15.8	15.1	15.0	16.4	20.6
2階ケース 湿度(%)	66.7	65.3	64.0	56.3	54.2	61.4	68.2	68.9	64.0	58.0	62.0	67.2	63.0

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 性別

男 47名 女 51名 合計 98名

2) 年齢

小学生以下 5名 中学生 1名 高校生 2名 大学生 18名
上記以外の10代 0名 20歳代 3名 30歳代 14名 40歳代 13名
50歳代 24名 60歳代 12名 70歳以上 6名 無回答 0名

3) 居住地

鹿児島市内 32名 鹿児島県内 15名 鹿児島県外 43名
大学関係者(学生・教職員) 8名 無回答 0名

4) 常設展示室を知った理由

立て看板 26名 ホームページ 13名 授業・講座等 2名
ポスター 7名 人にすすめられて 29名 その他 20名 無回答 1名

5) 感想

大変よい 63名 よい 33名 どちらともいえない 1名
つまらない 0名 大変つまらない 0名 無回答 1名

6) 感想・意見・要望等

アンケート 84件中 75件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「古い写真や昔の研究機器などよく残っていたなど感心した」「植物園に隣接し、静かな環境がよい。自分の大学にこんな素敵な博物館があっとうれしい」「鹿児島大学で発掘されたものにフォーカスした展示が興味深かった」「自分が暮らす鹿児島が、1万年前はどうだったか思いをめぐらせることができ、楽しい体験になった」などがあった。

展示内容については、「鹿児島の石材に関する展示がよかった。県内の様々な場所の溶結凝灰岩が一堂に集まりその違いがよく分かった」「鹿児島と火山とのかかわりの強さが印象的だった。

金が取れるなど利点もあるのだと知った」などがあった。

その他に意見・要望として、「大学祭の企画を毎年楽しみにしている」「留学生と来た。英語の解説がもっとあったらよかった」「発掘地点の名称、キャンパスのどのあたりなのか学外者にもわかるよう表示してほしい」「魚類や昆虫、植物などの標本も展示してほしい」「文化人類学的な研究成果や民俗的な展示もあるとよい」「鹿大の歴史がわかる展示をもっと増やしてほしい」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－ 2018 年度－ (2017 年度からの変更点)

展示追加

- ・神領 10 号墳出土 須恵器 (3 点)

展示終了

- ・朝鮮半島に起源をもつ弥生土器 (弥生時代中期前半、郡元キャンパス理学部 2 号館増築地点)
鹿大埋蔵文化財調査センター報告書作成のため

6. 常設展示室の課題

今年度は、昨年度に比べると一般・団体ともに入館者数が増加し、とくに大学祭の企画イベントには昨年を大きく上回る利用があった。また、団体についても入試課などから依頼のあった大学訪問における施設見学など、学外からの利用が件数・人数ともに増加している。

アンケートの回答を見ると、今年度は大河ドラマの観光誘客による県外からの利用が目立って多く見られたが、県内・市内からの一般入館者数も増えてきており、感想・意見からは構内遺跡や大学周辺の昔の様子、鹿児島火山や動植物といった身近な歴史や自然・風土への興味・関心の高さが感じられた。

今後も、大学の公開授業を受講する社会人や図書館の学外利用者など博物館に関心を持ってくれそうな対象に向けて館のイベントの告知や展示室の周知を強化していくなど、さらなる来館者増に向けた取り組みが必要である。

4 教育活動

1. 博物館実習

総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部4名、教育学部11名、理学部3名、水産学部3名・農学部5名であった。

4月28日は理学部・水産学部・農学部、5月12日は法文学部、5月13日は教育学部の学生に対して、橋本が担当し、博物館に関わる全分野において基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、博物館資料の撮影まで行った。今回は、被写体を土器、顕微鏡、シカの頭蓋骨とし、実際に全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行った。また撮影した画像をフォトタッチソフトを使って加工するところまで説明した（橋本）。

5月19日、26日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行った。法文学部3名、農学部5名、理学部3名、および水産学部3名の学生がおおよそ200点の標本を新規登録した（本村）。

6月2日、9日は田金が担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化（台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化）を行い、40点の植物標本の情報をデータベースに登録した（田金）。



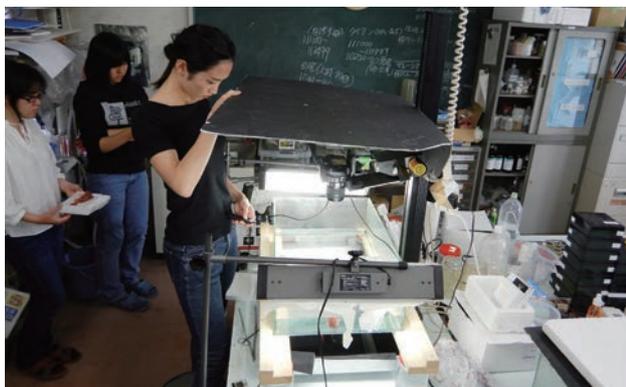
博物館実習作品画像（橋本）



1 魚類標本の作製



2 魚類標本の同定作業



3 魚類標本を撮影



4 魚類標本にタグをつけて登録

博物館実習（本村）



博物館実習 (田金)

2. 教員免許更新講習

2009年4月1日から教員免許更新制が導入され、鹿児島大学でも免許状更新講習が開設された。免許状更新講習とは、教員免許状をもつ人に対して、文部科学大臣の認定を受けて大学などが開設する最新の知識技能の修得を目的とする講習である。総合研究博物館では同講習の選択科目の開設を行っている。

8月3日(金)には橋本が、「郷土の歴史の学び方～考古学と博物館～」を開講した。参加者は18名、小学校・中学校(社会)・高等学校(地歴)を主な対象者として実施した。実講義は考古学という学問の概要から、遺跡の調べ方、考古資料の見方について説明し、また博物館の役割とその活用方法の解説をとおして、各地域の郷土の歴史を学ぶ方法を考えるものである。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、プログラムには博物館見学・発掘調査見学・拓本実習を含んでいる(橋本)。

9月29日(土)に本村を講師として「自然を記録する方法～魚類の博物学と標本の作製法～」が開講された。対象は小学校教諭と中学校・高等学校の理科教諭の合わせて10名。大航海時代から現代までの魚類コレクション構築の歴史を世界の博物館紹介を通して振り返るとともに、生物多様性を理解するための博物館コレクションの役割を解説した。また、標本の重要性を踏まえたうえで、魚類標本の最新の作製・保存方法を紹介し、実際に液浸標本を作製した。講義と実習は8:50から16:30まで行われ、後日、受講者10名全員が履修認定された(本村)。

3. インターンシップ

鹿児島県教育委員会より依頼があったインターンシップの受け入れを行った。これは、産業界と教育界が連携して中・高校生のためのインターンシップを全県的に実施し、勤労観・職業観の育成を図るとともに、高校や大学進学後の学問の意義を体験的に自覚させ、学習意欲の向上を図ることを目的とした「未来を拓くキャリア教育推進事業」の一環である。本年度は伊集院高校、1年生2名・2年生3名の計5名受け入れた。

8月1日(水)午前、橋本が担当した。博物館の役割、バックヤードでの業務について一通り説明を行った後、考古資料の室内整理作業として、遺跡から持ち帰った土壌中に含まれる微小遺物の選別作業を行った。

8月1日(水)の午後からは田金が担当した。博物館における植物標本の整理・データベース化を行い、植物標本の意義と管理に関して体験学習した。

8月2日(木)は本村が担当し、博物館における標本の収集と保存・管理をテーマに、午前中は海で釣り採集を行い、午後は採集された魚類の標本作製、撮影、登録作業を行った。



植物標本の整理・データベース化



考古資料の整理



1 鴨池で釣りによる海水魚採集



2 鴨池で釣りによる海水魚採集



3 クロホシイシモチが大漁



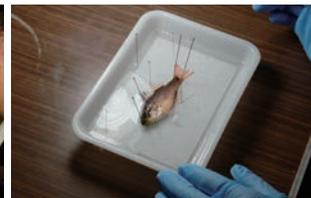
4 半日の釣果



5 釣った魚を博物館に持ち帰り標本を作成



6 ピンで鰓をきれいに広げる



7 ホルマリンにつけてしばらくすると固まる



8 薬品を使う作業は屋外ですると固まる



9 1日の活動を記録



10 最後に釣り中の写真を持ち帰ってもらいました

インターンシップ

5 出版・広報

2018 度の出版物は下記のとおりである。

ニュースレター 例年ニュースレターは1冊を特別展関連資料としている。さらに総合研究博物館にかかわる情報を掲載した号を1冊刊行している。

ニュースレター No.43 は、特別展にかかわる解説で全 16p。以下の 2 件掲載。

本村 浩之「笠沙の魚類相」

伊東 正英「笠沙で水揚げされる水産重要種」

ニュースレター No.44 は、総合研究博物館スタッフおよび関連分野教員の研究紹介からなる 6 件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全 16 ページ。

丸野 勝敏「下甌島の植物とその思い出」

田金秀一郎「鹿児島大学総合研究博物館の植物標本庫の充実に向けて」

大西 佳子「Let me think Let's discover 鹿児島大学総合研究博物館 with creativity !」

本村 浩之「総合研究博物館における外国人短期留学受入れ」

福元しげ子「鹿児島県トカラ列島臥蛇島現地調査に参加して」

橋本 達也「諏訪考古資料コレクション4—杉本寺跡の蔵骨器—」

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記の2冊を刊行している。

Mochida, I. and H. Motomura. 2018 (Sept.). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 202 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 10: 1-80.

本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 2019 (Feb.). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島. 436 pp., 3370 figs. (学長裁量経費+寄付金)

S. Tagane. 2018. Bidoup-Nui Ba National Park: Mt. Langbian. Center for Asian Conservation Ecology, Kyushu University.

年報 毎年1冊、前年度分の年報を刊行している。本年は、年報No.17、2017年度分を刊行した。

ポスター・チラシ 第18回特別展にあわせて、展示案内用のB2版ポスター・A4版チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。「笠沙の魚たち」の魚類ポスターを作成し、特別展会場や各所に配布した。

その他広報 ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。

6 ボランティア活動

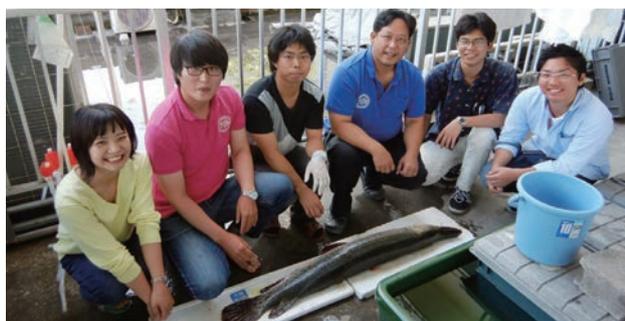
魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る(詳しくは『総合研究博物館ニュースレターNo. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照)。本年度は本学水産学



マンボウやチョウザメ標本の保存液取り換え作業



新種の可能性が高いトンガリサカザメの仲間の撮影



大阪城の内堀から採集されたアリゲーターガーの標本処理

ボランティア活動

部と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約 10000 標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約 50000 件の画像データベースを作成した。

7 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握、および管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を 2003 年から継続して実施している。2018 年度は田金秀一郎が特任助教として着任し、鈴木英治（前館長、現国際島嶼教育研究センター 特任教授）と共にデータベース化を推進した。また、2019 年 2 月には沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」が開始され、2019 年 2 月より西原茉莉が、同 3 月より中原敏昭が勤務し、標本整理・データベース化作業を加速させている。

2018 年度は 33,823 点の植物標本を KAG データベースに登録した。登録した標本情報は植物標本室の website (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouhonsitu.html>) にて公開を行っている。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏のご自身が採集した植物標本約 2 万点を整理するため、ほぼ毎日標本室に来館し、作業に従事された。2019 年 1 月からは日本シダの会に属する川原勝征氏が「九州のシダ植物図鑑（仮題）」の執筆に必要な資料を得るため、シダ標本のスキャン作業を行った。福元しげ子氏には通年を通してマウント作業（標本貼り）にご協力いただいた。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2018 年度は田金、鈴木、丸野が中心となって鹿児島県内を中心とする野外調査を通して 1244 点の植物標本を収集し、これらを KAG データベースに登録した。国立科学博物館からは、100 点のスゲ属標本の寄贈を受けた。新原修一氏からは、ご本人が記載した奄美大島のジワモチ (*Ilex* × *ziwadakensis*) のタイプ標本をご寄贈いただいた。KAG 標本の整理の過程で出てきた重複標本 12 点をタイ王立森林局植物標本館（BKF）に寄贈した。

植物標本の利用状況

2018 年度の総合研究博物館植物標本室所蔵の植物標本資料の利用状況を報告する

利用年月日	所属	分類群	点数	利用目的
2018 年 5 月 4 日	Silva Tarouca Research Institute for Landscape & Ornamental Gardening, Czech Republic	<i>Spiraea</i>	50	研究
2018 年 5 月 14-16 日	沖縄美ら島財団	Cyperaceae	50	研究
2018 年 5 月 21 日	熊本大学	<i>Diplazium</i>	100	研究
2018 年 5 月 23 日	東京大学理学系研究科付属植物園	<i>Pertya, Aristolochia</i>	200	研究
2018 年 5 月 27 日	熊本大学	<i>Glochidion, Weigela</i>	50	研究
2018 年 8 月 14 日	沖縄県教育庁	未整理標本（古新聞）	10	調査
2018 年 9 月 12-14 日	沖縄美ら島財団	<i>Najus</i>	20	研究
2018 年 11 月 26 日	沖縄美ら島財団	<i>Najus</i>	49	貸出
2019 年 1 月 16 日	The Singapore Botanic Gardens	<i>Cynanchum</i>	1	研究
2019 年 1 月 21 日	神戸大学	<i>Didymoplexiella</i>	1	研究
2019 年 1 月 7 日 ~ 3 月 31 日	日本シダの会	シダ類	21000	図鑑執筆資料

2. 魚類標本の利用状況

2018 年度の総合研究博物館所蔵魚類標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

脊索動物標本の利用状況

2018年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2018年4月	魚類	液浸標本	1	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2018年4月	魚類	液浸標本	1	宮崎大学	研究
2018年5月	魚類	液浸標本	1	愛知県	研究
2018年5月	魚類	筋肉組織	10	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2018年5月	魚類	標本画像	18	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2018年5月	魚類	液浸標本	5	東海大学	研究
2018年6月	魚類	液浸標本	2	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2018年6月	魚類	液浸標本	1	近畿大学	研究
2018年6月	魚類	標本画像	47	与論町漁業協同組合	パンフレット
2018年6月	魚類	筋肉組織	3	東海大学	研究
2018年6月	魚類	液浸標本	38	西海区水産研究所	研究
2018年7月	魚類	筋肉組織	1	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2018年7月	魚類	標本画像	63	鹿児島県大島支庁	パンフレット
2018年7月	魚類	筋肉組織	5	National Marine Fisheries Service, USA	研究
2018年7月	魚類	筋肉組織	3	Zhejiang Ocean University, China	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	6	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 国際水産資源研究所	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	6	山形大学	研究
2018年8月	魚類	筋肉組織	2	山形大学	研究
2018年8月	魚類	標本画像	20	Ocean Research Explorations, Hawaii	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	1	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	1	Queensland Museum, Australia	研究
2018年8月	魚類	筋肉組織	1	Queensland Museum, Australia	研究
2018年8月	魚類	標本画像	2	三重大学	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	15	近畿大学	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	15	近畿大学	研究
2018年8月	魚類	液浸標本	1	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2018年9月	魚類	筋肉組織	2	University of Chicago, USA	研究
2018年9月	魚類	標本画像	1	University of Chicago, USA	研究
2018年9月	魚類	液浸標本	1	Queensland Museum, Australia	研究
2018年9月	魚類	筋肉組織	1	Queensland Museum, Australia	研究
2018年9月	魚類	筋肉組織	1	CSIRO Marine and Atmospheric Research, Australia	研究
2018年9月	魚類	液浸標本	10	海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター	研究
2018年10月	魚類	液浸標本	2	宮内庁	研究
2018年10月	魚類	液浸標本	20	西海区水産研究所	研究
2018年10月	魚類	標本画像	2	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	展示
2018年10月	魚類	液浸標本	4	兵庫県立神戸高等学校	研究
2018年10月	哺乳類	骨格標本	10	Institut National des Langues et Civilisations Orientales, France	研究
2018年11月	魚類	筋肉組織	19	東海大学	研究
2018年11月	魚類	液浸標本	2	西海区水産研究所	研究
2018年11月	魚類	標本画像	4	西海区水産研究所	研究
2018年11月	魚類	筋肉組織	1	Queensland Museum, Australia	研究
2018年11月	魚類	液浸標本	5	高知大学	研究
2018年11月	魚類	標本画像	15	高知大学	研究
2018年11月	魚類	標本画像	35	Florida Museum of Natural History, University of Florida, USA	研究
2018年11月	魚類	液浸標本	10	近畿大学	研究
2018年11月	魚類	標本画像	1	東海大学	研究
2018年11月	魚類	標本画像	6	かごしま水族館	研究
2018年11月	魚類	標本画像	52	TBS テレビ	番組
2018年12月	魚類	標本画像	18	Queensland Museum, Australia	研究
2018年12月	魚類	標本画像	12	TBS テレビ	番組
2018年12月	魚類	筋肉組織	1	Queensland Museum, Australia	研究
2018年12月	魚類	標本画像	4	近畿大学	研究
2018年12月	魚類	標本画像	1	南海日日新聞	新聞
2018年12月	魚類	標本画像	1	奄美新聞	新聞
2018年12月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞
2018年12月	魚類	標本画像	6	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2018年12月	魚類	標本画像	7	南日本新聞	新聞
2019年1月	魚類	液浸標本	7	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2019年1月	魚類	標本画像	77	くすのき自然館	研究
2019年2月	魚類	標本画像	30	にほん魚検定	検定
2019年2月	魚類	標本画像	14	宮崎県・日南市	広報

2019年2月	魚類	筋肉組織	505	千葉県立中央博物館	研究
2019年2月	魚類	液浸標本	67	近畿大学	研究
2019年2月	魚類	標本画像	2	京都大学	研究
2019年2月	魚類	筋肉組織	1	京都大学	研究
2019年2月	魚類	筋肉組織	3	大阪大学	研究
2019年2月	魚類	標本画像	7	大阪大学	研究
2019年2月	魚類	液浸標本	1	National Museum of Marine Biology & Aquarium, Taiwan	研究
2019年2月	魚類	液浸標本	1	黒潮生物研究所	研究
2019年3月	魚類	筋肉組織	58	Zhejiang Ocean University, China	研究
2019年3月	魚類	液浸標本	5	沖縄美ら島財団	研究
2019年3月	魚類	液浸標本	13	西海区水産研究所	研究

合計 72 件 1315 点

3. その他の標本等の管理・利用

その他標本の利用状況は以下の表のとおりである。

地学標本の活用状況

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2019年2月	オーストラリアコア試料	1	東北大学大学院	研究利用(延長)

考古資料の活用状況

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2018年5月	九州南部古墳画像	7	国立歴史民俗博物館	展示・広報
2018年7月	神領10号噴出土土器	5	国立歴史民俗博物館	展示貸出
2018年8月	岡崎18号墳・神領10号墳出土土器	一括	宮崎県立西都原考古博物館	調査
2018年8月	神領10号墳出土高杯形器台・筒形器台・壺画像	4	朴天秀	書籍掲載貸出
2018年8月	岡崎18号墳・神領10号墳遺物	一括	国立加耶文化財研究所(韓国)	調査
2018年11月	神領10号墳盾持人埴輪埴輪画像	1	始良市歴史民俗資料館	書籍掲載貸出
2019年1月	神領10号墳盾持人埴輪埴輪画像	1	吉川弘文館	書籍掲載貸出
2019年1月	岡崎18号墳1号地下式横穴墓画像	1	始良市歴史民俗資料館	書籍掲載貸出
2019年2月	板石積石棺墓画像	1	吉川弘文館	書籍掲載貸出
2019年2月	神領10号噴出土土器	5	国立歴史民俗博物館	展示貸出(延長)

その他標本・資料の活用状況

利用年月	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2018年5月	地図(掛軸)	1	岩松暉・東京地学協会	展示
2018年6月	鹿児島高等農林学校資料	18	藤井鹿男(佐賀県農業試験研究センター)	調査
2018年8月	鹿児島高等農林学校資料	2	藤井鹿男(同上)	調査
2018年11月	鹿児島高等農林学校資料	22	鳥山淳(沖縄国際大学)	調査
2019年2月	鹿児島高等農林学校資料	1	藤井鹿男(上掲)	調査

4. 奄美の高倉補修

当館で管理する高倉は現存最古の資料として、その重要性からもともと鹿児島県立博物館が保有していたものであるが、火災に遭ったことを契機として、2002年に土田充義工学部教授(当時)が引き取り、現在地に再建したものである。

その後、たびたび修理・補修を行っており、2013年にはほとんどを解体して柱の修正まで行う大がかりな修理を行ったが、以後、5年を経過し、茅葺きに傷みが目立ちはじめた。とくに屋根頂部や屋根の表層の傷みが出てきたために、早めの補修が望まれるところであった。修理はこまめに、早めに手を打った方が軽微な補修で済むとの助言を得ていたことによる。そこで、学長裁量経費の採択を得ることができ、補修を行った。作業は、これまで再建、修理に関わっていただいていた



作業前



補修作業 1



補修作業 2



補修作業 3



補修作業 4



作業終了状況

る知覧町茅葺き保存会（南九州市）に委託した。作業は2018年12月10日から一週間ほどで行った。今回の補修は屋根の補修、茅の補充が中心であり、茅も傷みの少ないものはそのまま再利用している。そのため補修直後は、屋根の色味に斑が出てしまったが、しばらくして色も落ち着き、その後違和感なく仕上がっている。

8 2018年度専任教員の活動業績

橋本達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

教員免許状更新講習

放送大学 非常勤講師 面接授業「古墳と隼人による新しい古代史」

(2) 研究活動

1) 著書

橋本達也 2018.11『大学的鹿兒島ガイド—こだわりの歩き方』鹿兒島大学法文学部編（担当：共著，範囲：鹿兒島近代の戦争遺跡と戦跡考古学）昭和堂

岩本崇・橋本達也ほか20名 2018.5『前期古墳編年を再考する』（担当：共著，範囲：甲冑）六一書房

宇野隆夫・橋本達也ほか5名 2018.5「木製の武器・武具・馬具」『モノと技術の古代史』木器編 吉川弘文館

安田喜憲・七田忠昭・橋本達也ほか13名 2018.5「古墳時代の九州南部社会と交流」『東シナ海と弥生文化』環太平洋文明叢書6 雄山閣

2) 編著・研究報告

橋本達也（編著）2018.12『X線CT調査による古墳時代甲冑の研究』鹿兒島大学総合研究博物館 本文編 187p 図版編 675p

3) 論文等（査読無）

橋本達也 2019.3「諏訪考古資料コレクション4—杉本寺の蔵骨器—」『鹿兒島大学総合研究博物館 News』

4) その他

橋本達也 2019.2 「1991年春の奄美の記」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』奄美考古学会

(3) 外部資金

競争的外部資金 研究代表者

科研費 基盤研究 B (一般) 2014 年度～2018 年度. 「X線CT調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究」. 研究代表者.

研究分担者

基盤研究 C. 2017～2019 年度. 「古墳時代鉄鍬の変化と地域性に関する数理的解析」(研究代表者・松木武彦・国立歴史民俗博物館教授ほか2名との共同研究)

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 (審査委員)

東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会 委員 (鹿児島県肝属郡東串良町)

下北方地下式横穴第5号出土遺物再整理専門員会 委員

2) 公開講座等講師

2019年2月23日 小松島市長国の埋蔵文化財 5周年記念シンポジウム「金色に輝く甲冑と巨大古墳の時代—小松島市田浦出土の金銅装甲冑と倭の五王—」小松島市ミリカホール

2019年1月26日 堺市 百舌鳥古墳群魅力発掘講座 中級編～古墳を測るものさし～ 第2回「鉄製甲冑の年代観」堺市立みはら歴史博物館

2018年12月8日 広島県立歴史博物館 (草戸千軒ミュージアム) 発掘された日本列島 2018 関連記念講演会④「副葬品から読み解く古墳時代の王権と地域—武装具の副葬が表すもの」

2018年11月4日 えびの市歴史民俗資料館 企画展講演会 「島内139号墓の調査とその後の新発見3—武器・馬具と音の考古学—」えびの市文化センターホール

3) 調査指導・協力

2019年3月15～16日 荻田町教育委員会御所山古墳発掘調査指導

2019年2月18日 えびの市島内139号出土資料 調査指導

2018年10月24日 志布志市原田3号地下式横穴墓出土資料 調査指導

2018年10月17日 鹿児島市改新貝塚出土資料 調査指導

2018年10月3日 えびの市島内139号出土資料 調査指導

2018年9月14日 えびの市小木原地下式横穴墓群調査協力

2018年9月10日 臼杵市教育委員会・神下山古墳出土資料調査指導

2018年8月17・24日 えびの市島内173号地下式横穴墓調査協力

2018年7月20日 えびの市島内139号出土資料 調査指導

2018年5月31日～6月1日 佐世保市教育委員会：鬼塚古墳出土品調査指導

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員

学芸員資格科目委員会委員

七十年史編集委員会委員

七十年史編集専門部会委員

(6) 調査研究

島内139号地下式横穴墓出土資料調査 (えびの市教育委員会)

原田3号地下式横穴墓の調査研究 (志布志市)

(7) 報道関係

コメント

2018年10月10日「鉄製甲の内側に鹿皮 古墳時代前期の古墳で初 奈良・黒塚古墳で出土」読売新聞

本村浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

- 水産学部学芸員取得課程「博物館実習事前事後指導」(前期)
- 水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ I」(前期)
- 水産学研究科専門科目「リーディングコース I」(前期)
- 水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AII」(前期)
- 水産学研究科専門科目「修士論文研究」(前期・後期)
- 水産学研究科専門科目「修士研究ゼミ II」(後期)
- 水産学研究科専門科目「リーディングコース II」(後期)
- 水産学研究科専門指導科目「総合型指導 AI」(後期)
- 大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」(前期・後期)
- 大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」(前期・後期)

2) その他

- 博物館資料論 (前期)
- 教員免許状更新講習 (前期)
- 博物館実習 (前期)
- 博物館実習事前事後指導 (前期)

3) 研究教育

- 博士課程 6 人, 修士課程 6 人, 学部 3 人

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

- Matsunuma, M., V. P. Padate and H. Motomura. 2018 (Apr.). Re-assessment of a recent Indian Ocean record of the endemic East Asian species *Dendrochirus bellus* (Scorpaenidae: Pteroinae). *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 48 (1): 79–81.
- Morishita, S., T. Kawai and H. Motomura. 2018 (Apr.). *Sebastiscus vibrantus*, a new species of rockfish (Sebastidae) from Indonesia and Taiwan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0632-9.
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2018 (May). First record of the Gillspot Cardinalfish, *Neamia notula* (Apogonidae) from the Philippines. *Philippine Journal of Systematic Biology*, 11 (2): 10–13.
- Hata, H. and H. Motomura. 2018 (May). First record of the anchovy *Stolephorus teguhi* (Engraulidae) from the Philippines. *Philippine Journal of Systematic Biology*, 11 (2): 20–24.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (May). 高知県柏島と室戸市から得られたオオメメダイ科魚類ミナミメダイ *Ariomma brevimanum* の記録. *四国自然史科学研究*, 11: 10–15.
- Wibowo, K., K. Koeda, N. Muto and H. Motomura. 2018 (May). *Abudefduf nigrimargo*, a new species of damselfish (Perciformes: Pomacentridae) from Taiwan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0634-7.
- Koeda, K., T. Fujii and H. Motomura. 2018 (May). A new species of garden eel, *Heteroconger fugax* (Congridae: Heterocongrinae), from the northwestern Pacific Ocean. *Zootaxa*, 4418 (3): 287–295.
- Fujiwara, K., M. Okamoto and H. Motomura. 2018 (May). Review of the clingfish genus *Kopua* (Gobiesocidae: Trachelochisminae) in Japan, with description of a new species. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0633-8.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2018 (May). Revised diagnosis and first Northern Hemisphere records of the rare clingfish *Lepadichthys akiko* (Gobiesocidae: Diademichthyinae). *Species Diversity*, 23 (1): 87–93.
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2018 (May). Redescription and geographic variations of *Pterois antennata* and first record of *Pterois paucispinula* from French Polynesia (Scorpaenidae: Pteroinae). *Species Diversity*, 23 (1): 95–114.
- Fukui, Y., T. Uchida and H. Motomura. 2018 (May). First specimen-based record of *Ammolabrus dicrus* (Perciformes: Labridae) from Japanese waters, with notes on morphological ontogenetic changes and geographic variation. *Species Diversity*, 23 (1): 115–120.
- Iwatsubo, H. and H. Motomura. 2018 (June). *Chromis katoi*, a new species of damselfish from the Izu Islands, Japan, with a key to species in the *Chromis notata* species complex (Perciformes: Pomacentridae). *Aqua. International Journal of Ichthyology*, 24 (1): 27–34.
- Wibowo, K. and H. Motomura. 2018 (June). First Southern Hemisphere records of the deepwater

- scorpionfish *Phenacoscorpius megalops* (Scorpaenidae). *Cybum*, 42 (2): 210–212.
- Murase, A., R. Miki, M. Wada, M. Itou, H. Motomura and H. Senou. 2018 (July). Review of the Japanese records of an endangered grouper, *Epinephelus tukula*, with notes on the population status (Teleostei: Serranidae). *ZooKeys*, 722: 153–163.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2018 (July). A new species, *Propherallodus longipterus*, from the Philippines and redescription of *P. briggsi* Shiogaki and Dotsu 1983 (Gobiesocidae: Diplocrepinae). *Ichthyological Research*, doi: /10.1007/s10228-018-0645-4.
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2018 (Aug.). Three new species of the Indo-Pacific stingfish genus *Minous* (Synanceiidae: Minoinae) with redescriptions of *M. trachycephalus* (Bleeker 1855) and *M. pictus* Günther 1880. *Zootaxa*, 4455 (2): 201–257.
- Short, G., R. Smith, H. Motomura, D. Harasti, H. Hamilton. 2018 (Aug.). *Hippocampus japapigu*, a new pygmy seahorse from Japan, with a redescription of *H. pontohi* (Teleostei: Syngnathidae). *ZooKeys*, 779: 27–49.
- Inaba, T. and H. Motomura. 2018 (Sept.). Review of the Indo-West Pacific genus *Inimicus* (Synanceiidae: Choridactylinae). *Zootaxa*, 4482 (1): 52–90.
- 高橋夢加・岡田 誠・笹木大地・本村浩之・木村清志. 2018 (Sept.). 熊野灘と東シナ海から得られた日本初記録のムロアジ属魚類 *Decapterus kurroides* キツネアカアジ (新称). *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.18–023.
- Wibowo, K., S. Harazaki, K. Koeda and H. Motomura. 2018 (Sept.). Variations in caudal-fin base spots in *Abudefduf caudobimaculatus* (Perciformes: Pomacentridae) and notes on distribution range extensions. *Biogeography*, 20: 1–5.
- Hata, H. and H. Motomura. 2018 (Sept.). Additional specimens of the poorly known anchovy *Stolephorus multibranchus* (Clupeiformes: Engraulidae) from Kosrae, Caroline Islands. *Biogeography*, 20: 78–84.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2018 (Sept.). *Helcogramma melanolancea*, a new triplefin (Perciformes: Tripterygiidae) from Bali, Indonesia. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0660-5.
- Nakamura, J., B. C. Russell, G. I. Moore and H. Motomura. 2018 (Oct.). *Scolopsis meridiana*, a new species of monocle bream (Perciformes: Nemipteridae) from northern Australia. *Zootaxa*, 4500 (2): 222–234.
- Chungthanawong, S. and H. Motomura. 2018 (Oct.). Two new species of the waspfish genus *Ablabys* (Scorpaeniformes: Tetrarogidae) from the western Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0665-0.
- Yoshida, T., K. Mabuchi and H. Motomura. 2018 (Oct.). *Rhabdamia novaluna*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the western Pacific Ocean, with comments on the synonymy of *Rhabdamia gracilis*. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0664-1.
- Yoshida, T., M. Hayashi and H. Motomura. 2018 (Nov.). *Ostorhinchus yamato*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from Japan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0670-3.
- Nakamura, J., M. Takayama, J. Worthington Wilmer, J. W. Johnson and H. Motomura. 2018 (Nov.). First Japanese record of the Speckled Grouper *Epinephelus magniscuttis* (Perciformes: Serranidae) from the Osumi Islands. *Species Diversity*, 23 (2): 225–228.
- Yoshida, T., K. Kuriwa and H. Motomura. 2018 (Nov.). First confirmed Japanese record of *Suttonia lineata* (Perciformes: Serranidae) from Iwo Island, Volcano Islands. *Species Diversity*, 23 (2): 229–232.
- Tashiro, S., D. Uyeno and H. Motomura. 2018 (Nov.). First Japanese records of the jawfish *Opistognathus solorensis* (Actinopterygii: Perciformes: Opistognathidae) from the Osumi Islands. *Species Diversity*, 23 (2): 233–237.
- Yoshida, T., K. Koeda and H. Motomura. 2018 (Nov.). Distributional range extension of *Xeniamia atrithorax* (Perciformes: Apogonidae) in the northern South China Sea. *Species Diversity*, 23 (2): 239–241.
- Uejo, T., K. Wibowo and H. Motomura. 2018 (Nov.). First Japanese record of the Black Margined-scale Sergeant *Abudefduf nigrimargo* (Perciformes: Pomacentridae) from the Tokara Islands. *Species Diversity*, 23 (2): 249–251.
- Wada, H., H. Senou and H. Motomura. 2018 (Dec.). *Plectranthias maekawa*, a new species of perchlet from the Tokara Islands, Kagoshima, Japan with a review of Japanese records of *P. wheeleri* (Serranidae: Anthiadinae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0674-z.
- Okamoto, M. and H. Motomura. 2018 (Nov.). *Navigobius asayake*, a new species of ptereleotrine goby (Gobioidei: Microdesmidae) from Kagoshima, southern Japan. *Zootaxa*, 4526 (3): 373–380.
- 萩原清司・本村浩之. 2018 (Dec.). 奄美群島加計呂麻島から採集された日本初記録のイトウダイ科魚類 *Sargocentron iota* コガシラエビス (新称). *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.18–035.
- Hata, H. and H. Motomura. 2018 (Dec.). *Stolephorus insignis*, a new anchovy from the western Pacific and redescription of *Stolephorus apiensis* (Jordan and Seale 1906) (Clupeiformes: Engraulidae).

- Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-018-00675-5.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2018 (Dec.). 沖縄島から得られたテンジクダイ科魚類の稀種シロヘリテンジクダイ. 日本生物地理学会会報, 73: 156–159.
- Hata, H. and H. Motomura. 2018 (Dec.). Redescription and distributional range extension of a poorly known anchovy *Stolephorus nelsoni* (Actinopterygii: Clupeiformes: Engraulidae). Acta Ichthyologica et Piscatoria, 48 (4): 381–386.
- Hata, H., K. Koeda, H.-C. Ho and H. Motomura. 2018 (Dec.). First record of *Hemiramphus archipelagicus* (Beloniformes: Hemiramphidae) from Taiwan. Platax, 15: 65–71.
- Buchanan, J. R., G. M. Ralph, F. Krupp, H. Harwell, M. Abdallah, E. Abdulqader, M. Al-Husaini, J. M. Bishop, J. A. Burt, J. H. Choat, B. B. Collette, D. A. Feary, S. A. Hartmann, Y. Iwatsuki, F. Kaymaram, H. K. Larson, K. Matsuura, H. Motomura, T. Munroe, B. Russell, W. Smith-Vaniz, J. Williams and K. E. Carpenter. 2019 (Jan.). Regional extinction risks for marine bony fishes occurring in the Persian/Arabian Gulf. Biological Conservation, 230: 10–19.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2019 (Jan.). Validity of *Lepadichthys misakius* (Tanaka 1908) and redescription of *Lepadichthys frenatus* Waite 1904 (Gobiesocidae: Diademichthyinae). Zootaxa, 4551 (3): 275–298.
- 和田英敏・三木涼平・上城拓也・本村浩之. 2019 (Feb.). 熊本県天草市近海から得られた熊本県初記録を含む魚類. 熊本野生生物研究会誌, 9: 17–24.
- Fujiwara, K., H. Wada and H. Motomura. 2019 (Feb.). A new species of the greeneye genus *Chlorophthalmus* (Teleostei: Chlorophthalmidae) from the central North Pacific. Zootaxa, 4555 (3): 396–406.
- Matsunuma, M. and H. Motomura. 2019 (Feb.). Redescription of *Dendrochirus zebra* (Scorpaenidae: Pteroinae) with a new species of *Dendrochirus* from the Ogasawara Islands, Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00681-1.
- Hata, H. and H. Motomura. 2019 (Mar.). A new species of sardine, *Sardinella electra* (Teleostei: Clupeiformes: Clupeidae), from the Ryukyu Islands, Japan. Zootaxa, 4565 (2): 274–280.
- Hata, H. and H. Motomura. 2019 (Mar.). A new species of sardine, *Sardinella pacifica* from the Philippines (Teleostei, Clupeiformes, Clupeidae). ZooKeys, 829: 75–83.

2) 研究論文 (査読なし)

- 畑 晴陵・三木涼平・本村浩之. 2018 (Apr.). 鹿児島県初記録のタチウオ科魚類カンムリダチ. Nature of Kagoshima, 44: 303–306.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2018 (Apr.). 薩摩半島から得られた鹿児島県初記録のクロタチカマス科魚類フウライカマス. Nature of Kagoshima, 44: 307–310.
- 畑 晴陵・高山真由美・本村浩之. 2018 (Apr.). 種子島近海から得られたシマガツオ科魚類リュウグウノヒメの記録. Nature of Kagoshima, 44: 311–314.
- 和田英敏・本村浩之. 2018 (Apr.). ニザダイ科魚類ナガテングハギモドキの鹿児島県薩摩半島と種子島からの記録. Nature of Kagoshima, 44: 315–319.
- 萬代あゆみ・伊東正英・高山真由美・本村浩之. 2018 (Apr.). 鹿児島県本土と大隅諸島から初めて記録されたヒメジ科魚類ヨスジヒメジ. Nature of Kagoshima, 44: 321–325.
- 畑 晴陵・伊東正英・鍋木紘一・本村浩之. 2018 (Apr.). 九州沿岸と種子島から初めて記録されたフエフキダイ科魚類キツネフエフキ. Nature of Kagoshima, 44: 327–332.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Apr.). カタクチイワシ科魚類タイワンアイノコイワシの志布志湾からの確かな記録. Nature of Kagoshima, 44: 333–340.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Apr.). 屋久島初記録のナガサキフエダイ. Nature of Kagoshima, 44: 341–345.
- 田代郷国・高山真由美・本村浩之. 2018 (Apr.). 鹿児島県初記録のハタ科魚類イッテンサクラダイ. Nature of Kagoshima, 44: 347–351.
- 中村潤平・本村浩之. 2018 (Apr.). 八代海南部から得られたアジ科魚類ナンヨウカイワリ. Nature of Kagoshima, 44: 353–357.
- 畑 晴陵・鍋木紘一・本村浩之. 2018 (Apr.). 種子島から得られたマルサヨリ. Nature of Kagoshima, 44: 359–362.
- 畑 晴陵・岩坪洸樹・高山真由美・本村浩之. 2018 (Apr.). 鹿児島県から得られたハタ科魚類2稀種の記録. Nature of Kagoshima, 44: 363–369.
- 畑 晴陵・前川隆則・本村浩之. 2018 (Apr.). 奄美大島から得られたウマヅラアジ. Nature of Kagoshima, 44: 371–375.
- 畑 晴陵・大富 潤・本村浩之. 2018 (May). 鹿児島湾初記録のヒウチダイ科魚類ハシキンメ. Nature of

- Kagoshima, 44: 377-381.
- 畑 晴陵・三木涼平・和田正昭・本村浩之. 2018 (June). 九州・パラオ海嶺北部東方の四国海盆から得られた稀種アカナマダ *Lophotus capellei* の記録. 南紀生物, 60 (1): 67-71.
- Delloro, E. S. Jr. and H. Motomura. 2018 (Aug.). First records of *Gigantias immaculatus* (Perciformes: Gigantiidae) from the Osumi and Tokara islands, Kagoshima Prefecture, Japan, with notes on sexual dimorphism. Nature of Kagoshima, 45: 21-25.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018 (Sept.). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 202 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 10: 1-80.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Nov.). 九州沿岸初記録のトビウオ科魚類ニノジトビウオ. Nature of Kagoshima, 45: 49-53.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Nov.). 大隅半島東岸の内之浦湾から得られた九州沿岸初記録のモンガラカワハギ科魚類オキハギ. Nature of Kagoshima, 45: 55-58.
- 森下悟至・本村浩之. 2018 (Nov.). トカラ列島諏訪之瀬島から得られたオウゴンニジギンポ. Nature of Kagoshima, 45: 63-67.
- 吉田朋弘・山田守彦・本村浩之. 2018 (Nov.). テンジクダイ科魚類2種の水中写真に基づく鹿児島県薩摩半島からの記録. Nature of Kagoshima, 45: 69-71.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Dec.). 九州沿岸初記録のマンジュウダイ科魚類ミカツキツバメウオの記録. Nature of Kagoshima, 45: 73-77.
- 中村潤平・高久 至・畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Dec.). 屋久島で撮影されたイヤゴハタとカケハシハタの交雑個体. Nature of Kagoshima, 45: 79-81.
- 荒木萌里・高久 至・本村浩之. 2018 (Dec.). 屋久島におけるトラギス属魚類2種の記録. Nature of Kagoshima, 45: 83-87.
- 藤原恭司・鈴木寿之・本村浩之. 2018 (Dec.). シマミドリハゼとキビレイソハゼ (ハゼ科イソハゼ属) の日本における分布状況. Nature of Kagoshima, 45: 89-97.
- 畑 晴陵・三木涼平・本村浩之. 2018 (Dec.). 宮崎県から得られたオキイワシ *Chirocentrus dorab* の記録. 南紀生物, 60 (2): 220-224.
- 中村潤平・山口 実・本村浩之. 2018 (Dec.). 琉球列島初記録のチゴダラ科魚類ソコクロダラ. Nature of Kagoshima, 45: 99-102.
- 和田英敏・萩原清司・本村浩之. 2018 (Dec.). 鹿児島県沖永良部島から得られた北限記録のヒラウミタケハゼおよび本種の生態学的新知見. Nature of Kagoshima, 45: 103-107.
- 畑 晴陵・藤井琢磨・本村浩之. 2018 (Dec.). 奄美大島から得られたリュウグウノツカイ. Nature of Kagoshima, 45: 123-127.
- 萬代あゆみ・小西祐伸・田中啓介・本村浩之. 2019 (Jan.). 屋久島初記録のトビウオ科魚類アカトビ. Nature of Kagoshima, 45: 147-150.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2019 (Jan.). 沖永良部島から得られたハタ科魚類ヤマトトゲメギスの黄緑色幼魚. Nature of Kagoshima, 45: 189-191.
- 和田英敏・本村浩之. 2019 (Jan.). チカメタカサゴの日本における成魚3個体目の記録. Nature of Kagoshima, 45: 193-195.
- 畑 晴陵・前川隆則・本村浩之. 2019 (Jan.). 奄美大島から得られた絶滅危惧種カンムリブダイ. Nature of Kagoshima, 45: 201-205.
- 畑 晴陵・山田守彦・本村浩之. 2019 (Jan.). 内之浦湾から得られた鹿児島県初記録のオキイワシ. Nature of Kagoshima, 45: 207-210.
- 森下悟至・本村浩之. 2019 (Feb.). 有毒魚類ツムギハゼの九州沿岸における標本に基づく初めての記録. Nature of Kagoshima, 45: 211-215.
- 藤原恭司・吉田朋弘・本村浩之. 2019 (Feb.). 屋久島におけるチャイロヤッコ (キンチャクダイ科) の標本に基づく初めての記録. Nature of Kagoshima, 45: 217-219.
- 中村潤平・伊東正英・本村浩之. 2019 (Feb.). 薩摩半島西岸から得られた分布北限記録のシラスイハタ. Nature of Kagoshima, 45: 221-224.
- 畑 晴陵・伊東正英・岩坪洗樹・本村浩之. 2019 (Mar.). 薩摩半島西岸から得られた北限記録のセイタカヒイラギ. Nature of Kagoshima, 45: 237-241.
- 萬代あゆみ・伊東正英・岩坪洗樹・本村浩之. 2019 (Mar.). 薩摩半島西岸から得られたヒメジ科魚類2種: 九州初記録のフタスジヒメジと鹿児島県初記録のコハクヒメジ. Nature of Kagoshima, 45: 249-254.
- 藤原恭司・宮本 圭・本村浩之. 2019 (Mar.). 与那国島から得られた沖縄県初記録のキオビイブナダイ. Nature of Kagoshima, 45: 255-257.

吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2019 (Mar.). 種子島から得られた大隅諸島初記録のサクラダイ. *Nature of Kagoshima*, 45: 291-294.

上城拓也・平田堅固・本村浩之. 2019 (Mar.). 薩摩半島南端から得られた標本に基づく九州初記録のキテンハタ. *Nature of Kagoshima*, 45: 295-296.

3) 書籍

本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 2018 (Apr.). 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市, 国立科学博物館, つくば市. 414 pp., 3290 figs.

本村浩之 (監). 2018 (Apr.). 学研の図鑑 LIVE Pocket 魚類. 学研プラス, 東京. 222 pp.

本村浩之 (監). 2018 (July). 怪魚・珍魚大百科. 学研プラス, 東京. 176 pp.

Sheikh Abdul Kadir, S. T., M. Mohamad-Norizam, N. B. Baharim, T. Arai, H. Motomura, M.-L. Husain, M. A. Ghaffar, M. A. Ambak. 2018 (Sept.). Diversity and Abundance Fish Assemblages in the Setiu Wetlands, Terengganu, Malaysia. Pp. 219-241. In: Abdullah, M., A. Mohammad, M. Nor Zalipah, and M. Safih Lola (eds.) Greater Kenyir landscapes. Social development and environmental sustainability: from ridge to reef. Springer Nature Switzerland AG, Cham.

本村浩之 (編). 2018 (Oct.). 4 章分布. Pp. 164-206. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

本村浩之. 2018 (Oct.). 魚類相. Pp. 182-183. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

本村浩之. 2018 (Oct.). 南日本の魚類相. Pp. 192-193. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

本村浩之. 2018 (Oct.). 無効分散と死滅回遊魚. P. 206. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

本村浩之・福井美乃. 2018 (Oct.). 生物地理—海水魚. Pp. 166-167. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

吉田朋弘・本村浩之. 2018 (Oct.). 大陸移動—海水魚. Pp. 170-171. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

畑 晴陵・本村浩之. 2018 (Oct.). 分散と分断—海水魚. Pp. 174-175. 日本魚類学会 (編) 魚類学の百科事典. 丸善出版, 東京.

本村浩之 (監). 2018 (Dec.). はっけんずかんプラス「深海の生き物」. 学研プラス, 東京. 34 pp.

本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 2019 (Feb.). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島. 436 pp., 3370 figs.

本村浩之・鈴木廣志. 2019 (Apr.). 第1部 南西諸島の生物地理. Pp. 8-22. 鹿児島大学生物多様性研究会 (編). 奄美群島の水生生物—山から海へ 生き物たちの繋がり—. 南方新社, 鹿児島.

本村浩之. 2019 (Apr.). 第4部 海中で暮らす生き物たち, 第4章 水塊で暮らす生き物たち. Pp. 208-223. 鹿児島大学生物多様性研究会 (編). 奄美群島の水生生物—山から海へ 生き物たちの繋がり—. 南方新社, 鹿児島.

4) その他の出版物

本村浩之. 2018 (July). 総合研究博物館における魚類学にかかわる 2017 年度の研究活動. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 42: 8-11.

本村浩之. 2018 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No.5 アカヘビギンポ. さくらじまの海, 22 (1): 8.

本村浩之. 2018 (July). 笠沙の魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 43: 1-16.

本村浩之. 2018 (Sept.). 書評「タツノオトシゴ図鑑」. 学燈 秋号, 115(3): 56-57.

本村浩之. 2018 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No.6 ニゲミズチンアナゴ. さくらじまの海, 22 (2): 8.

本村浩之. 2018 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No.7 カササハオコゼ. さくらじまの海, 22 (3): 8.

本村浩之. 2019 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No.8 アミメオヤビッチャ. さくらじまの海, 22 (4): 8.

5) 学会・シンポジウム等発表

本村浩之. 2018 (17 May). 黒潮が育む鹿児島の魚たち. 気軽に学ぼう! ジオ講座. 鹿児島市役所みなと大通り別館 6 階ソーホー会議室, 鹿児島市.

藤原恭司・本村浩之. 2018 (9-10 June). フィリピンから得られたウバウオ科ヒメウバウオ属の 1 未記載種とヒメウバウオの形質評価. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス, 鹿児島. Poster

松沼瑞樹・本村浩之. 2018 (9-10 June). オニオコゼ科ヒメオコゼ属の 3 未記載種. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス, 鹿児島. Poster

和田英敏・瀬能 宏・宮本 圭・本村浩之. 2018 (9-10 June). 日本近海から得られたハタ科イブハナダイの色彩多型. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス, 鹿児島. Poster

上城拓也・K. Wibowo・本村浩之. 2018 (9-10 June). スズメダイ科オヤビッチャ属魚類 *Abudedefduf*

- nigrimargo* の日本からの初めての記録. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス 鹿児島. Poster
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (9-10 June). 西太平洋から得られたニシン科サツパ属魚類の 2 未記載種. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス, 鹿児島. Oral
- 荒木萌里・渋谷浩一・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). 沖縄県西表島から得られたヨウジウオ科オクヨウジ属の 1 未記載種. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Poster
- 中村潤平・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). 鹿児島県におけるマハタ属魚類 *Epinephelus* の種多様性と分布. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Poster
- 萬代あゆみ・松原孝博・後藤理恵・岩槻幸雄・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). ヒメジ科オキナヒメジ *Parupeneus spilurus* の色彩と形態における性的二型. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Poster
- 和田英敏・甲斐嘉晃・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). 西太平洋から得られたシロカサゴ科シロカサゴ属の 3 未記載種. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Poster
- Chungthanawong, S. and H. Motomura. 2018 (6-7 Oct.). Two undescribed species of the waspfish genus *Ablabys* (Scorpaeniformes: Tetrarogidae) from the western Pacific Ocean. The 51st Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan. National Olympics Memorial Youth Center, Tokyo. Poster
- 吉田朋弘・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). テンジクダイ科クダリボウズギス属魚類 *Gymnapogon foraminosus* の有効性. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Poster
- 武田浩輔・後藤 亮・木村清志・小林大純・本村浩之・半澤直人. 2018 (6-7 Oct.). パラオ諸島に生息する トウゴロウイワシ科 *Atherinomorus* 属とノコギリハゼ科 *Ophiocara* 属魚類の分類学的検討. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Oral
- 森下悟至・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). ヤマトカマスとオオヤマトカマスは未記載種. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Oral
- 上城拓也・瀬能 宏・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). 西インド洋モーリシャスとセーシェルから得られたチョウチョウウオ科ゲンロクダイ属の 1 未記載種. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Oral
- 藤原恭司・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). ウバウオ科メシマウバウオ属の分類学的再検討. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Oral
- 畑 晴陵・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). ニシン科サツパ属 *Sardinella hualiensis* 類似種群の分類学的再検討. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Oral
- 田代郷国・本村浩之. 2018 (6-7 Oct.). ヘビギンボ科ベニモンヘビギンボ *Helcogramma ishigakiensis* 類似種群の分類学的再検討. 第 51 回日本魚類学会年会. 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京. Oral
- Uejo, T. and H. Motomura. 2018 (30 Nov. - 5 Dec.). Two undescribed species of the Indo-Pacific butterflyfish genus *Roa* (Chaetodontidae) from the northwestern Pacific and southwestern Indian oceans. The Annual Conference of the Asian Society of Ichthyologists 2018. Guangxi University, Nanning, China. Poster
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2018 (30 Nov. - 5 Dec.). Review of the clingfish genus *Lepadichthys* (Gobiesocidae: Diademichthyinae) in Japan. The Annual Conference of the Asian Society of Ichthyologists 2018. Guangxi University, Nanning, China. Poster
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2018 (30 Nov. - 5 Dec.). Taxonomic review of the genus *Setarches* (Setarchidae) in East Asia. The Annual Conference of the Asian Society of Ichthyologists 2018. Guangxi University, Nanning, China. Poster
- 本村浩之. 2018 (2 Dec.). 魚の形態と進化. かごしま水族館いおっ子海っ子体験塾. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. Oral
- 本村浩之. 2018 (8 Dec.). 鹿児島の魚類. 第 7 回錦江湾学習会. 重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム, 始良市. Oral
- 和田英敏・三木涼平・上城拓也・本村浩之. 2019 (2 Feb.). 熊本県天草市近海から得られた熊本県初記録を含む魚類. 熊本野生物研究会第 52 回会員研究発表会. 熊本市現代美術館, 熊本市. Oral
- 本村浩之. 2019 (16 Feb.). 奄美群島の魚たち. H30 年鹿児島大学生物多様性シンポジウム「奄美群島の海と川の生き物たち～未来に残したい宝物～」. AiAi ひろば, 奄美市. Oral
- 本村浩之. 2019 (28 Feb.). 甌島とトカラ列島の魚類相. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター「重点領域研究(島嶼)トカラ列島および甌島列島総合調査報告会」. 鹿児島大学総合教育研究棟, 鹿児島市. Oral
- Motomura, H. 2019 (16 Mar.). Fish species diversity in Lake Tonle Sap and the Angkor Monument Park,

Cambodia. Research Meeting on the Progress Results of “Tonle Sap EMSB Phase 2: Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap, Cambodia”. Angkor Training Centre, Main Office of the APSARA National Authority, Siem Reap. Oral

(3) 外部資金

- 日本学術振興会 研究拠点形成事業－B. アジア・アフリカ学術基盤形成型－「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」(分担)
- 日本学術振興会 科研費基盤研究 (B) (海外学術調査)「カンボジアのトンレサップ湖における生物多様性維持機構の再評価」(分担)
- 国立科学博物館 「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究」
- 文部科学省 特別経費－地域貢献機能の充実－「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」(分担)
- 公益財団法人日本海事科学振興財団 海の学び ミュージアムサポート事業 プログラム3 海の学び調査・研究サポート「笠沙海域における魚類の多様性」(代表)

(4) 社会貢献・学外活動

- 日本魚類学会 代議員
- 日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員
- 日本生物地理学会 評議員
- 国際自然保護連合 種の保存委員
- オーストラリア博物館 客員研究員
- 金沢大学環日本海域環境研究センター 外来研究員
- かごしま水族館 評議員
- 鹿児島県自然環境保全協会 理事
- 鹿児島県純心女子短期大学 非常勤講師
- 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員
- フィリピン生物分類学雑誌 編集顧問
- 三重大学博士論文審査 外部審査委員
- 日本動物分類学会第54回大会 大会長

(5) 学内委員等

- 総合研究博物館 館長
- 企画・評価委員会 委員
- 男女共同参画推進センター 委員
- グローバルセンター 兼務教員
- 国際島嶼教育研究センター 兼務教員
- 大学院連合農学研究科入試委員会 委員
- 大学院連合農学研究科 学位論文審査委員会 委員
- 大学院農林水産学研究科設置準備委員会 委員
- 総合研究博物館 学祭企画イベント「サメに触ろう！」 企画・担当
- 総合研究博物館 特別講演会「台湾の魚類学史」 企画・担当
- 総合研究博物館 第35回市民講座「環境DNA」 企画・担当
- 総合研究博物館 第18回特別展「笠沙の魚たち」 企画・担当

(6) 主な調査研究 (学会や会議は除く)

- 2018年4月2-7日 台湾国立海洋生物博物館所蔵の魚類標本調査
- 2018年4月24-26日 奄美大島の魚類調査
- 2018年5月7-15日 台湾国立海洋生物博物館所蔵の魚類標本調査
- 2018年5月20-25 神奈川県立生命の星・地球博物館・国立科学博物館所蔵の魚類標本調査
- 2018年7月21-29日 ベトナム・ニャチャンの魚類相調査
- 2018年8月19-24日 インドネシア・ボゴール動物学博物館所蔵の魚類標本調査
- 2018年9月9-24日 フランス国立自然史博物館・ハンブルク大学博物館・オーストリア国立自然史博物館所蔵の魚類標本調査
- 2018年10月21-26日 沖永良部島の魚類相調査
- 2018年12月16-18日 笠沙周辺海域の魚類相調査

2019年3月4-6日 笠沙周辺海域の魚類相調査

2019年3月15-20日 カンボジア・アンコールワット遺跡公園内の魚類相調査

(7) 報道関係

世界さまぁ〜リゾート。フィリピン エルニド徹底攻略SP！TBS, 2018年4月21日, 0:00～(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。フィリピン 水着美女に聞いた ボラカイ島おすすめスポットSP。TBS, 2018年4月28日, 0:00～(魚の同定と解説)

大好評！見たことない！アニマル映像SP。フジテレビ, 2018年5月2日, 19:57～(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。タイ・サムイ島SP。TBS, 2018年5月5日, 0:00～(魚の同定と解説)

奄美大島でチンアナゴの新種発見 研究者グループが発表。共同通信, 京都新聞, 神戸新聞, 佐賀新聞, 北海道新聞, 高知新聞, 西日本新聞など, 2018年5月9日

チンアナゴの新種が奄美大島に 研究者グループが発表。産経ニュース, 2018年5月9日

新種「ニゲミズチンアナゴ」大島海峡で発見, 研究者ら発表。南海日日新聞, 2018年5月10日

新種のチンアナゴ発見。鹿大島嶼研・藤井特任助教が共同報告。大島海峡「環境が豊かで多様性が高い」。奄美新聞, 2018年5月11日

大島海峡に新種チンアナゴ。鹿大が発表 命名「ニゲミズチンアナゴ」。朝日新聞, 2018年5月11日

世界さまぁ〜リゾート。タイ・サムイ島SP。TBS, 2018年5月12日, 0:00～(魚の同定と解説)

逃げ水みたい？すぐ隠れるチンアナゴの新種発見 奄美。朝日新聞, 2018年5月15日

世界さまぁ〜リゾート。バリ島 激安リゾートホテル調査！。TBS, 2018年5月19日, 0:00～(魚の同定と解説)

ニゲミズチンアナゴのニュース。NHK 鹿児島, 2018年5月21日, 12:10～

世界さまぁ〜リゾート。タヒチ・ボラボラ島 絶景スポット満喫SP。TBS, 2018年5月26日, 0:00～(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。バリ島 最深スポットSP。TBS, 2018年6月2日, 0:00～(魚の同定と解説)

アリゲーターガール in 大阪城。まるトク ZIP！ 読売テレビ, 2018年6月6日, 5:08～(魚の解説)

世界さまぁ〜リゾート。タヒチ 穴場リゾートアイランドSP。TBS, 2018年6月9日, 0:00～(魚の同定と解説)

火曜サプライズ。日本テレビ系列, 2018年6月12日, 19:00～19:56(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。コロンビア・カタルヘナ調査SP。TBS, 2018年6月16日, 0:00～(魚の同定と解説)

新種 和名「ナノハナスズメダイ」岩坪さん発表。南日本新聞, 2018年6月16日

魚類研究の成果”大漁” 鹿大博物館チーム 新種や初確認 13年以降50種。南日本新聞, 2018年6月21日

スズメダイの新種確認 ナノハナスズメダイ 幼魚 鮮やかな黄色の体色。読売新聞, 2018年6月22日

世界さまぁ〜リゾート。コロンビア アクティビティ調査SP。TBS, 2018年6月23日, 0:00～(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。沖縄県 久米島 マストスポットSP。TBS, 2018年7月28日, 0:00～(魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リゾート。平野ノラ IN 沖縄本島バブリーレポートSP。TBS, 2018年8月4日, 0:00～(魚の同定と解説)

This colorful new seahorse is the size of a grain of rice. Researchers have discovered a tiny new species of pygmy seahorse that inhabits the boulder-strewn coasts of Japan. National Geographic, 10 Aug. 2018

魚の標本15万個体 鹿大博物館 歴代院生ら製作 国内外から貸し出し依頼。南日本新聞, 2018年8月12日

深場に潜む夏のオニカサゴを釣り上げろ ～カラテカ 矢部 山形県酒田市へ～。釣りびと万歳。NHK BS プレミアム, 2018年8月19日, 17:30-17:59(魚の同定と解説)

タツノオトシゴ小さな新種。八丈島周辺 体長2.5センチ以下。読売新聞, 2018年8月28日

まるごと体感！奄美・沖縄 奇跡の島々。NHK九州・沖縄域放送, 2018年8月31日, 19:57-20:42(魚の同定と解説)

観音ヶ池水抜き 在来魚引越し いちき串木野。南日本新聞, 2018年9月2日

タツノオトシゴ 豆粒大の新種。読売 Kodomo 新聞, 2018年9月6日

世界さまぁ〜リゾート。マウイ島現地調査SP！1週目。TBS, 2018年9月22日, 0:00～(魚の同定と解説)

陶山賢治のぶにせんもえ 第1回。MBC ラジオ, 2018年9月23日

世界さまぁ〜リゾート。マウイ島現地調査SP！2週目。TBS, 2018年9月29日, 0:00～(魚の同定と解説)

陶山賢治のぶにせんもえ 第2回。MBC ラジオ, 2018年9月30日

世界さまぁ〜リゾート。マウイ島現地調査SP！3週目。TBS, 2018年10月3日, 0:00～(魚の同定と解説)

さわやか自然百景 奄美の海。NHK, 2018年10月7日, 7:45-7:59(魚の同定と解説)

陶山賢治のぶにせんもえ 第3回。MBC ラジオ, 2018年10月7日

新種 日本から報告続々 保護や研究の進展に期待。朝日新聞, 2018年10月9日

陶山賢治のぶにせんもえ 第4回。MBC ラジオ, 2018年10月14日

さわやか自然百景 奄美の海。NHK, 2018年10月15日, 16:05-16:19(魚の同定と解説)

See the seahorse? Scholastic News 3. Scholastic, a children's educational publisher, USA. 15 Oct. 2018

世界さまぁ〜リポート. モルディブ ゴージャスアイランド SP ! 2 週目. TBS, 2018 年 10 月 20 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

笠沙に新種「カササハオコゼ」 鹿大院のタイ人留学生発表. 南日本新聞, 2018 年 10 月 21 日

通称「ジャパビグ」は新種だった. 世界の科学ニュース & おもしろニュースを 10 分で. ミルシル, 11 (6): 33 (2018 年 11 月 5 日)

錦江湾のなぎさから. MBC ラジオ. 2018 年 12 月 1 日

徳之島の魚 500 種 1 冊に. 自ら 300 種採取、標本作りも. 南日本新聞, 2018 年 12 月 8 日

世界さまぁ〜リポート. パラオ ダイバーおすすめスポット SP. TBS, 2018 年 12 月 8 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

トカラ海域で新種の魚類発見. 前川氏にちなみ命名. 南海日日新聞, 2018 年 12 月 13 日

新種のハタの仲間発見. 鹿大総合研究博物館「アヤマイズハナダイ」と命名. 奄美新聞, 2018 年 12 月 13 日

十島に新種のハタ. 南日本新聞, 2018 年 12 月 13 日

ハタ科の新種発見. トカラ近海で 赤い網目模様. 朝日新聞, 2018 年 12 月 15 日

世界さまぁ〜リポート. パラオ 日本語だけで OK スポット SP. TBS, 2018 年 12 月 15 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

世界さまぁ〜リポート. 三村旅部、癒しの初心者ダイバー寛美和子 (IHSP). TBS, 2018 年 12 月 29 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

鹿大博物館 新種 5、国内初 11 種 18 年は「大漁」. 南日本新聞, 2018 年 12 月 30 日

よゐこの無人島 0 円生活. テレビ朝日, 2018 年 12 月 31 日, 18:00 ~ 24:30 (魚の同定と解説)

赤道の魚釣れた 三島・黒島近海で 鹿児島市の岡留さん. 南日本新聞, 2019 年 1 月 9 日

世界さまぁ〜リポート. タイ・カオラックのダイバーおすすめスポット. TBS, 2019 年 1 月 19 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

Japan earthquake, tsunami fears heighten after oarfish sightings but scientists say it's not a bad omen. South China Morning Post, 31 Jan. 2019

FISH OF DOOM Creepy Giant Oarfish sighting in Japan sparks tsunami panic amid fears sea beasts only rise to surface before huge earthquakes. The Sun, a News UK Company, 31 Jan. 2019

Kjempefisker skaper tsunami-frykt i Japan. Dagbladet, Norway, 2 Feb. 2019

Rare fish sighting in Japan sparks 'Precursor to Earthquake' fears. New York Post, 2 Feb. 2019

世界さまぁ〜リポート. 注目のビーチリゾート地 バヌアツ SP. TBS, 2019 年 2 月 9 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

奄美の魚 1300 種 図鑑完成. 鹿大博物館 きょう発売. 研究、漁業振興に一役. 南日本新聞, 2019 年 2 月 15 日

世界さまぁ〜リポート. バヌアツ 2 大アイランド 徹底攻略 SP. TBS, 2019 年 2 月 16 日, 0:00 ~ (魚の同定と解説)

多種多様 生態系の保全重要 水生生物の研究成果報告 鹿大シンポ「貴重な北限分布域」も. 奄美新聞, 2019 年 2 月 17 日

1321 種網羅 『奄美群島の魚類図鑑』出版 編者・本村さん「生態解明の足掛かりに」. 奄美新聞, 2019 年 2 月 17 日

「知識深め正しい保全を」奄美市で生物多様性シンポ. 南海日日新聞, 2019 年 2 月 17 日

「奄美群島の魚類図鑑」出版. 鹿大博物館、1321 種 身近な生き物に興味を. 南海日日新聞, 2019 年 2 月 17 日

奄美の海 奇跡のサンゴ礁. NHK BS 8K, 2019 年 3 月 31 日, 21:00 ~

田金秀一郎 [特任助教]

(1) 教育活動

1) 全学共通教育

集中講義「屋久島の環境文化 I - 植生 -」(後期)

2) その他

博物館資料論 (前期)

博物館実習 (前期)

博物館実習事前事後指導 (前期)

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

Tagane S., Dang V.S., Souladeth P., Nagamasu H., Toyama H., Naiki A., Fuse K., Tran H., Yang C.-J., Prajaksood A. and Yahara T. 2018. Five new species of *Syzygium* (Myrtaceae) from Indochina and

- Thailand. *Phytotaxa* 375: 247–260.
- Mitsuyuki C., Tagane S., Ngoc N.V., Binh H.T., Suddee S., Rueangruea S., Toyama H., Mase K., Yang C.-J., Naiki A. and Yahara T. 2018. Two new species of *Neolitsea* (Lauraceae), *N. kraduengensis* from Thailand and *N. vuquangensis* from Vietnam and an analysis of their phylogenetic positions using ITS sequences. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 69: 161–173.
- Tagane S., Tanaka Nob., Mu Mu Aung, Naiki A. and Yahara T. 2018. Contributions to the Flora of Myanmar II: New records of eight tree species from Tanintharyi region, southern Myanmar. *The Natural History Bulletin of the Siam Society* 63: 47–56.
- Tanaka Nob., Tagane S., Naiki A., Mu Mu Aung, Tanaka Nor., Dey S., Mood J. and Murata J. 2018. Contributions to the Flora of Myanmar I: Nine taxa of monocots newly recorded from Myanmar. *Bulletin of the National Science Museum Series B (Botany)* 44(1): 31–39.
- Suetsugu K., Tagane S., Toyama H., Chhang P. and Yahara T. 2018. *Lecanorchis vietnamica* (Orchidaceae), a newly recorded mycoheterotrophic genus and species from Cambodia. *Cambodian Journal of Natural History* 2018(1) 6–8.
- Suetsugu K., Souladeth P., Tagane S. and Yahara T. 2018. First record of the mycoheterotrophic orchid *Lecanorchis taiwaniana* from Nam Ha National Protected Area, northern Laos. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 69: 139–141.
- Souladeth, P., Tagane S., Naiki A., Nagamasu H. and Yahara T. 2018. *Gentiana laotica*, a new species of Gentianaceae from Laos. *Thai Forest Bulletin (Botany)* 46(1): 72–75. <https://doi.org/10.20531/tfb.2018.46.1.11>.
- Komada N., Tagane S., Ngoc NV, Binh HT, Son HT, Toyama H., Nagamas H., Naiki A. and Yahara T. 2018. *Erythroxylum calyptratum* (Erythroxylaceae), a new species from Mt. Fansipan, northern Vietnam. *Phytotaxa* 347: 279–284.
- Suetsugu K., Ling C.Y., Naiki A., Tagane S., Takeuchi Y., Toyama H. and Yahara, T. 2018. *Lecanorchis sarawakensis* (Orchidaceae, Vanilloideae), a new mycoheterotrophic species from Sarawak, Borneo. *Phytotaxa* 338: 135–139.
- Binh H.T., Ngoc N.V., Tai V.A., Son H.T., Tagane S. and Yahara T. 2018. *Quercus trungkhanhensis* (Fagaceae), a new species from Cao Vit Gibbon Conservation Area, Cao Bang Province, northeastern Vietnam. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 69(1): 53–61. <https://doi.org/10.18942/apg.201713>
- Binh H.T., Ngoc N.V., Tagane S., Toyama H., Mase K., Mitsuyuki C., Suyama Y. and Yahara T. 2018. A taxonomic study of *Quercus langbianensis* complex based on morphology and DNA barcodes of classic and next generation sequences. *PhytoKeys* 95: 37–70. <https://doi.org/10.3897/phytokeys.95.21126>
- Ngoc N.V., Hung N.V., Binh H.T., Tagane S., Toyama H., Son H.T., Ha T.V. and Yahara T. 2018. *Lithocarpus vuquangensis* (Fagaceae), a new species from Vu Quang National Park, Vietnam. *PhytoKeys* 95: 15–25. doi: 10.3897/phytokeys.95.21832.
- Tagane S., Souladeth P., Zhang M. and Yahara T. 2018. Flora of Nam Kading National Protected Area IV: Two new species of Annonaceae, *Monoon namkadingense* and *Neo-uvaria laosensis*. *Phytotaxa* 336: 82–88. <http://dx.doi.org/10.11646/phytotaxa.336.1.6>
- Yang C.-J., Tagane S., Souladeth P., Okabe N., Hu J.-M., and Yahara T. 2018. Flora of Nam Kading National Protected Area III: *Begonia namkadingensis* (Begoniaceae), a new species in limestone area. *Phytotaxa* 334 (2): 195–199. <http://dx.doi.org/10.11646/phytotaxa.334.2.8>
- Suetsugu K., Tsukaya H., Tagane S., Chhang P., Yukawa T. and Yahara T. 2018. Flora of Bokor National Park VII: *Thismia bokorensis* (Burmanniaceae), a new species representing a new generic record. *Phytotaxa* 334(1): 65–69. <http://dx.doi.org/10.11646/phytotaxa.334.1>.
- Binh H.T., Ngoc N.V., Bon T.N., Tagane S. and Yahara T. 2018. A new species and two new records of *Quercus* (Fagaceae) from northern Vietnam. *PhytoKeys* 92: 1–15. <https://doi.org/10.3897/phytokeys.92.21831>
- Dang V.S., Toyama H., Tagane S., Hoang N.S. and Naiki A. 2019. *Calophyllum honbaense* (Clusiaceae), a new species from Hon Ba Nature Reserve, southern Vietnam. *Taiwania* 64: 86–89. doi: 10.6165/tai.2019.64.86
- Dang V.S., Tagane S., Honag N.S., Toyama H. and Naiki A. 2019. *Lasianthus bidoupensis* (Rubiaceae), a new species from southern Vietnam. *Annales Botanici Fennici* 56: 191–195. doi: 10.5735/085.056.0123
- Souvannakhoummae K., Souladeth P., Tagane S., Yang C.-J. and Yahara T. Flora of Nam Kading National Protected Area VI: *Didymocarpus middletonii* (Gesneriaceae), a new species from limestone. *Edinburgh Journal of Botany* 76: 45–54. doi: 10.1017/S0960428618000264

Tagane S., Toyama H., Tanaka Nob., Mu Mu Aung, Nagahama A., Aung Khaing Win, Swe Swe Win, and Yahara T. 2019. Contributions to the Flora of Myanmar III: New records of 10 woody species from Mergui Archipelago of southern Myanmar. The Natural History Bulletin of the Siam Society, 63(2): 141–151

2) 研究論文 (査読無)

矢原徹一・遠山弘法・田金秀一郎. 2019. 東南アジアの樹木多様性に関する広域的・網羅的アセスメント. 森林遺伝育種 8: 45–49. https://doi.org/10.32135/fgtb.8.1_45

3) 書籍

Nagahama A., Tagane S., Ngoc V.N., Binh H.T., Cuong T.Q., Toyama H., Nagamasu H., Tsuchiya K., Zhang M., Suyama Y., Moritsuka E., Thu N.T.A., Tinh N.C., Matsuo A., Hirota S., Naiki A., Son L.V., Nhan P.H. and Yahara T. 2019. Picture guide for forest trees in Bidoup-Nui Ba National Park I: Mt. Langbian. Center for Asian Conservation Ecology, Kyushu University, Fukuoka. 134 pp.

4) 学会・シンポジウム等発表

Tanaka N., Mu Mu Aung, Tagane S. and Thaung Naing Oo. 2018 (13 Dec.) Plant Inventory in Myanmar: A last puzzle piece for SE Asian Flora. International Symposium "Updating of Flora and Fauna of Myanmar". Forest Research Institution, Nay Pyi Taw, Myanmar. Oral

Nagahama A., Zhang M., Mu Mu Aung, Tanaka N., Tagane S. and Yahara T. 2018 (13 Dec.) Species diversity of upper montane forest of Mt. Victoria, Myanmar. International Symposium "Updating of Flora and Fauna of Myanmar". Forest Research Institution, Nay Pyi Taw, Myanmar. Poster

Tagane S., Nagahama A., Tanaka N., Mu Mu Aung, Zhang M., Toyama H., Nagamasu H., Okabe N., Naiki A. and Yahara T. 2018 (13 Dec.) Plant diversity assessment using a standardized belt-transect method in Myanmar. International Symposium "Updating of Flora and Fauna of Myanmar". Forest Research Institution, Nay Pyi Taw, Myanmar. Poster

Zhang M., Tagane S., Nagahama A., Tanaka N., Yahara T. and Mu Mu Aung. 2018 (13 Dec.) Tree species diversity of Taninthayi Nature Reserve in Myanmar. International Symposium "Updating of Flora and Fauna of Myanmar". Forest Research Institution, Nay Pyi Taw, Myanmar. Poster

手塚賢至・山下大明・斉藤俊浩・田金秀一郎・布施健吾・廣田峻・手塚田津子・手塚木咲. 2018 (15–17 Dec). 屋久島低地照葉樹林帯における植物種多様性評価. 屋久島学ソサエティ. 屋久島町総合センター, 屋久島町. Poster

Tagane S. 2018 (23 Dec.) Findings from transect surveys on plant diversity in Bi Doup Nui Ba National Park and surrounding areas. Symposium of "The ecological research of plant diversity and forest ecosystem in Bidoup - Nui Ba National Park and surrounding areas" Dalat University, Dalat, Vietnam. Oral

田金秀一郎. 2019 (13 Jan.) 東南アジア熱帯林の植物多様性と新種比率. 公開シンポジウム「熱帯林の植物種多様性とその保全」. 東京国際フォーラム ガラス棟会議室 G404, 東京都. Oral

田金秀一郎. 2019 (2 Feb.) 東南アジアの植物種多様性の解明を目指して. 松下幸之助記念奨励賞受賞講演. 大阪リーガルホテル, 大阪市. Oral (invited speaker)

田金秀一郎・鈴木英治. 2019 (8 Mar.) 鹿児島県総合研究博物館の植物標本室 (KAG) の紹介. 日本植物分類学会第 18 回大会. 首都大学東京, 八王子市. Oral

永濱藍・田金秀一郎・Zhang Meng・土屋考人・陶山佳久・松尾 歩・廣田峻・森塚絵津子・Nguyen Van Ngoc・Hoang Thi Binh・永益英敏・内貴章世・遠山弘法・矢原徹一. ベトナムのランピアン山における樹木の種構成と開花・結実フェノロジー. 日本植物分類学会第 18 回大会. 首都大学東京, 八王子市. Poster

田金秀一郎. 2019 (16 Mar.) 日本生態学会公開シンポジウム「アジア太平洋地域生物多様性観測ネットワーク 10 年の成果と新たな課題」, 神戸国際会議場・神戸国際展示場, 神戸市. Oral (invited speaker)

駒田夏生・中西晃・田金秀一郎・清水伽耶・Paulus Meleng・市岡孝朗・神崎護. 2019 (15–19 Mar.) ボルネオ島の熱帯低地林における維管束着生植物のハビタット分割様式. 日本生態学会第 66 回大会. 神戸国際会議場・神戸国際展示場, 神戸市. Poster (生物多様性部門 ポスター最優秀賞)

(3) 外部資金

一般財団法人沖繩美ら島財団 共同研究「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」

公益財団法人長尾自然環境財団 研究者育成支援プログラム (CGF) 「Floristic inventory and plant diversity assessment of Bolaven Plateau, southern Laos」(プロジェクトコーディネーター)

公益財団法人 自然保護助成基金 プロ・ナトゥーラ・ファンド 第30期助成「世界自然遺産候補地奄美群島の森林生態系に関する基礎的研究」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員
一般財団法人 沖縄美ら島財団 西表植物誌編纂事業 協力委員
環境省 絶滅危惧植物調査 調査員
鹿児島植物研究会 会員
屋久島照葉樹林ネットワーク 会員

(5) 学内委員等

鹿児島大学理学部地球環境学科 非常勤講師

(6) 主な調査研究(学会や会議は除く)

2018年5月9-10日 下甌島の植物相調査
2018年5月22-25日 屋久島の植物相調査
2018年6月3日 磯間岳の植物相調査
2018年6月13日-7月3日 ベトナム・Bidoup Nui Ba 国立公園の植物相調査
2018年8月15日-9月5日 マレーシア・Kinabalu 国立公園の植物相調査
2018年9月11日 大口市の山間湿地の植物相調査
2018年9月19日-10月10日 ベトナム・Bidoup Nui Ba 国立公園の植物相調査
2018年10月18-19日 下甌島の植物相調査
2018年10月31日-11月2日 タイ・王立森林局植物標本館の植物標本調査
2018年11月2-9日 カンボジア・Kampong Thom の植物相調査
2018年11月10-24日 ミャンマー・Tanintharyi 自然保護区の植生調査
2018年11月27-30日 屋久島の植物相調査
2018年12月5-18日 ラオス・Dong Hua Sao 国家自然保護区の植物相調査
2018年12月19-28日 ベトナム・Bidoup Nui Ba 国立公園の植物相調査
2019年1月9-12日 東京大学、国立科学博物館、首都大学東京の植物標本調査
2019年1月14-19日 屋久島の植物相調査
2019年2月18-28日 ラオス・Dong Hua Sao 国家自然保護区の植物相調査
2019年3月11-12日 屋久島の植物相調査
2019年3月18-28日 フィリピン・Banahaw 山の植生調査

大西佳子 [助教]

出版物

大西 佳子 2019 「Let me think ... Let's discover 鹿児島大学総合研究博物館 with creativity !」『鹿児島大学総合研究博物館 NewsLetter』No.44

9 2018年度 ポスター



鹿児島大学総合研究博物館 第18回特別展
笠沙の魚たち

2018年7月1日 ▶▶ 8月31日

場所 笠沙恵比寿 時間 9:00 ~ 17:00
 入場料 大人 200 円 (中学生以下無料)

東シナ海に面した笠沙の豊かな海。ここでみられる 500 種の魚の標本や触れるサメやエイの標本を展示。笠沙で記録された珍しい魚や水産重要種の情報が満載。来場者には「笠沙の魚」のポスターをプレゼント。

問い合わせ

鹿児島大学総合研究博物館 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267 URL: http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/	笠沙恵比寿 〒897-1301 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦 14847 番地 1 Tel: 0993-59-5020 Fax: 0993-64-2281 E-mail: info@kasasaebisu.com URL: http://www.kasasaebisu.com/
--	--

共催 笠沙恵比寿・鹿児島水圏生物博物館 協力 笠沙町漁業協同組合

鹿児島大学総合研究博物館 第25回研究交流会
日本動物学会九州支部・九州植物学会・日本生態学会九州地区会の合同研究会共催

東南アジアにおける植物の多様性

東南アジア地域は世界でも有効な植物多様性の高い地域ですが、どんな植物がどこにどれくらい生えているのか、といった基礎情報が圧倒的に不足しています。2014年から7年間に渡って東南アジア全域で植物多様性モニタリングプロジェクトをスタートする研究に取り組んできた成果を、調査の様子や発見された数多くの新種、多様な植物の魅力と共に紹介し、基礎研究の大事さについて考えてみたいと思います。



日時：2018年7月14日(土) 10:30~11:30 (入場無料)
場所：鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟2階203講義室
講師：田金秀一郎 (鹿児島大学総合研究博物館)

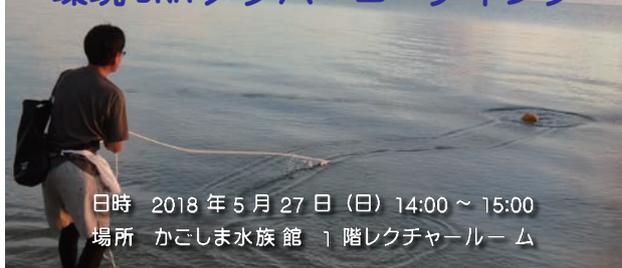
鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 TEL: 099-285-8141 FAX: 099-285-7267
http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/



会場 総合教育研究棟
現在地

鹿児島大学総合研究博物館・かごしま水族館共催事業
鹿児島大学総合研究博物館 第35回市民講座/かごしま水族館 特別講演会

バケツ一杯の水で 住んでいる魚がわかる技術： 環境DNA メタバーコーディング



日時 2018年5月27日(日) 14:00~15:00
場所 かごしま水族館 1階レクチャールーム

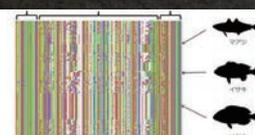
【講師】宮正樹 (千葉県立中央博物館) 【募集締切】5月20日(日) 定員に達していない場合は当日参加OK
【対象】どなたでも 【募集方法】お名前、年齢、電話番号、メールアドレスをご記入の上 FAX、はがき、メールのいずれかで応募ください。
【料金】無料 (入館料または年間パスポートは必要) 〒892-0814 鹿児島市本港新町3-1
【内容】ある水域にらす魚を捕るためには、釣りや網で捕まえたり通って見るなど大変な努力がかかります。しかし「水をくむことで、そこにすむ魚がわかる」という画期的な方法が開発されました。どうしてそのようなことができるのか、また今後この技術からどのような可能性があるのかをわかりやすく解説します。 展示課学芸交流係
FAX: 099-223-7692
E-mail: oubo@howard.jp

【定員】先着50人

ゆうゆうカード対象講座となります

鹿児島大学総合研究博物館 いおワールドかごしま水族館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 TEL: 099-285-8141 FAX: 099-285-7267 URL: http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/

〒892-0814 鹿児島市本港新町3-1
TEL: 099-223-2233 FAX: 099-223-7692 URL: http://www.ioworld.jp



鹿児島大学総合研究博物館 第36回 市民講座

リアル 田原坂

— 西南戦争を考古学する —

2018年10月13日(土) 13:30~15:00

講師：中原幹彦 (熊本市立熊本博物館)



TABARUZAKA
KUMAMOTO

入場無料 (参加自由)

場所：鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟1階102号室 (公共交通機関をご利用下さい)

“田原坂”の発掘調査を実施してきた講師がその成果から、ここで何があったのか、そのリアルを明らかにします。そして文化財として田原坂の意義を考えます。

鹿児島大学総合研究博物館
http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/

お問い合わせ 099-285-8141 890-0065 鹿児島市郡元1-21-30

鹿児島大学総合研究博物館 第18回 自然体験ツアー

城山の地形・地質さんぽ

2018年9月15日(土) 13:30~16:30 歩いて感じる
場所：城山(鹿児島市)



SHIROYAMA

まごころたきさん!
たんたん石
城山層 阿多火砕流
入戸火砕流(シラス)
サツマ火砕流 縄文海進
湧水
お堀の水道

案内人：大木公彦
(鹿児島大学名誉教授・元総合研究博物館長)

■鹿児島市の身近な自然、“城山”を歩きます。案内人がプラタモリでも紹介した地形・地質のほか、国指定天然記念物となっている自然林なども紹介します。

定員：20名(中学生以上。定員を超えた場合は抽選。)
参加申込み期間：7月15日~8月16日
参加申込み方法：はがきかFAXに、名前・住所・電話番号・メールアドレスを記入の上、下記の総合研究博物館まで。
抽選の結果は、8/20頃に、原則メールでお知らせします。
個人情報は本企画の受付・連絡以外に使用いたしません。

集合場所・持ち物は参加決定者に連絡いたします。

鹿児島大学総合研究博物館
890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 FAX: 099-285-7267
問い合わせ：099-285-8141

鹿児島県のサメをさわろう!

サメとエイの博物館標本を一般公開!

鹿児島県に生息する世界一小さいサメや、人を襲うこともある大きいサメ、変わった形のエイ、シビレルエイ、サメのようなエイなど珍しい標本が勢ぞろい

怖くないよ

11月17日(土) 13:00~15:30
11月18日(日) 11:00~15:30

鹿児島大学 郡元キャンパス
総合研究博物館 常設展示室前

鹿児島大学総合研究博物館には15万点の魚類標本が保管され、日々教育研究に活用されています。今日はその一部を公開します。

頭から尾に向かって触り、次に尾から頭に向かって触ろう
サメ肌を感じることができます

サメとエイは何が違うかな?
シビレルエイの発電器はどんな感触かな?
頭や歯の形はどうか?
頭にある無数の小さな穴(ロレンチーニ器官)を見つけよう!
獲物の筋肉が動く際に出る微弱な電流を感知する穴です

標本をさわるときの注意事項

ある種のエイにはしっぽに毒針があります。標本になった時点で無毒化されていますが、刺されると物理的にけがをしますので気を付けて下さい。同様にサメの歯に触る際にもけがをしないように注意してください。

標本はアルコールで保存されており、今日は水に浸けてあります。ややアルコールを含んだ水になっていますので、アレルギーなどがある方は備え付けの手袋をして標本にふれて下さい。

魚のポスターをプレゼント

ご希望の方にはどちらか一方のポスターをプレゼント

Touch Me!

鹿児島県のサメをさわろう!

さかのポスタープレゼント中

鹿大祭 11月17・18日

むかしの実験ビンなど・新品、あまります

グッズプレゼント

サメとエイの博物館標本を一般公開!

17日(土) 13:00~15:30
18日(日) 11:00~15:30

Get your chance!

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室

10 2018年度 魚類ポスター

笠沙の魚たち

鹿児島県南さつま市 笠沙の魚たち

鹿児島大学総合研究博物館 常設展示室前

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No. 18

2018

2020.03.31

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan